



## 寄稿 リスクマネジメント 実践のための着眼点

02

### CONTENTS

- 01 ご挨拶  
情報セキュリティに関わる最近の動きについて
- 10 JNSAワーキンググループ紹介
- 10 ● JNSA教育部会・JNSAゲーム教育プロジェクト
- 12 ● JNSAソリューションガイド活用WG
- 14 会員企業ご紹介
- 17 JNSA会員企業情報
- 18 イベント開催の報告
- 18 ● Network Security Forum 2017
- 20 ● JNSA賀詞交歓会・JNSA賞表彰式のご報告
- 22 ● JNSA IoTセキュリティセミナー報告
- 25 インターネット安全教室
- 28 事務局お知らせ
- 37 JNSA年間活動
- 38 会員紹介

## 情報セキュリティに関わる 最近の動きについて

JNSA 理事  
東芝ソリューション株式会社  
遠藤 直樹



社会、経済、文化、技術などは常に変化をしていると思うが、その中で最近私が経験した情報セキュリティに関わる動きについて考えてみたい。それらの動きにおいては、技術者として考えていかねばならないことがたくさんあり、今後、皆さんと協力していければ良いと思う。

まず、1月下旬に那覇市で開催された「SCIS2017暗号と情報セキュリティシンポジウム」である。700名を超える多くの方々が参加されたと聞いたが、今回も先進的な領域の技術が多く発表され、熱心な討論が繰り広げられた。今回新しく設けられたセッションとして「機械学習セッション」がある。人工知能(AI)、ロボット応用、多くの産業機械応用として脚光を浴びている技術領域である。セッションの内容は大きく2つが含まれる。一つは、セキュリティ要素技術の一つとして機械学習を活用し、攻撃対策やプライバシー保護に役立てようという考え方である。もう一つは、機械学習を含むAIシステムへの攻撃(例えば学習器への入力を改ざんするなどして結果としてAIアプリケーションの誤判定を誘発させる、など)を如何に検知して防御するか、である。今後AIシステムの活用がさらに広まっていった時を考えると機械学習に関するセキュリティ面の研究は非常に重要と思われる。AIシステム全体の脆弱性をなくし、ユーザが困らないようにする必要がある。

次に欧州において検討が進むデータ流通に関する規制の動きである。2016年4月のEU一般データ保護規則(General Data Protection Regulation: GDPR)において、個人情報関連データのEU域外への持ち出しは原則禁止、行う場合は条件や義務を伴う、という解釈がある。一方、非個人情報で機械生成データに関しては上記GDPRではカバーされていないため、次のステップを定義してカバーできるような制度を作っていこうというわけである。今年1月10日にEUのDigital Single Market Newsletterで公表された。これらの動きは、情報流通を支えるITインフラに対して何を要求することになるのだろうか。EU域外の企業等も場合によっては対象となる可能性があり、私たちも慎重に見極め対応を考える必要がある。

最後にIoTの一種としてのHEMS(家庭のエネルギー管理)について述べたい。ある場において私はHEMSの安心安全対策検討に参加した。その検討においては情報セキュリティの視点だけでなく、PL法、個人情報保護法、電気用品安全法などを重要視した検討を実施した。つまり、身近なシステムの安心安全は情報セキュリティだけで語るのは困難ということである。今後私たちは広い視野で広い領域を学習して世の中の安心安全に貢献しなければならぬ。技術者としていつまでも学ぶ姿勢を維持するのが重要と言えそうである。

# リスクマネジメント実践のための着眼点

JNSA 組織で働く人間が引き起こす不正・事故対応WG  
大日本印刷株式会社  
野津 秀穂

## 1. はじめに

情報セキュリティマネジメントシステムや個人情報保護マネジメントシステムにおいて安全管理を実施するためには、リスク認識、分析及び対策により、リスクに応じた適切な措置を講じる必要があり、リスクアセスメント技法としてISO31010でも提起されている。実施のための要求事項を各種規格として文書化すると、その記述は、どうしても一般化・汎用化した記述になる。一方、対象とするビジネスは多様性に富む。規格とビジネス局面での解釈を結びつけるためテキストや雛形も公開されているものの、すべての業種の例を網羅することはできない。このような条件下で実務者は、規格を解釈しリスクマネジメントを進めていくことになるが、その結果、どこから着手するか悩み始め、初めの一步で挫折したり、前例に頼り、対象ビジネス固有の真のリスクを見落とし、効率的・効果的な対策にたどり着かず、過剰な方法を選択し、ムリを生じかねない。誤解の排除、もしくは、解釈の不足を補うために、別の視点を加えた考察が要求され、関連するマネジメントシステム技術を横断的に検討することにより、規格が何を意図しているかを知ることができる。

本稿では、筆者が所属する印刷産業を例にとり、一般財団法人日本印刷産業連合会「印刷産業のための個人情報保護の手引き」に掲載しているリスク分析の手法をベースに、マネジメントシステムと一般システム理論の考え方と照合し、リスクマネジメント実践のための着眼点を整理する。

## 2. リスクマネジメントー用語の整理ー

リスクマネジメント<sup>1</sup>は、「リスクについて、組織を指揮統制するための調整された活動」であり、「リスクマネジメントの枠組み」の中で「リスクマネジメントプロセス」で実施する。

### 2.1 リスクマネジメントの枠組み

リスクマネジメントの枠組みは組織全体にわたって、リスクマネジメントの設計(Plan)、実践(Do)、モニタリング(Check)、レビュー、継続的改善(Act)の基盤及び組織内の取り決めを提供する構成要素の集合体と定義され、PDCAサイクルを含んでいる。

### 2.2 リスクマネジメントプロセス

マネジメントプロセス(経営過程)は、経営管理論の始祖といわれるH.ファイヨール(経営過程学派)によって提唱された考え方である。

リスクマネジメントプロセスは、コミュニケーション、協議及び組織状況の確定の活動、並びにリスクアセスメント(リスクの特定、分析、評価)、リスク対応、モニタリング及びレビューの活動に対する、運用管理方針、手順及び実務の体系的な適用と定義される。

リスクアセスメントは、特定のリスクにどのように対応し、どのようにして対応の選択肢の中から選択することに関して、情報を得た上での意思決定を下すために、証拠に基づいた情報及び分析を提供することを目的としている。ここは、「意思決定とは代替案の選択である。」「経営は意思決定過程」といった、H.A. サイモンの意思決定論に基づいている。

### 2.3 マネジメントシステム<sup>2</sup>

マネジメントシステムは、方針、目的及びその目的を達成するためのプロセスを確立するための、相互に関連する又は相互に作用する、組織の一連の要素と定義される。この定義は示唆に富むので、改めて整理しておきたい。「互に関連する又は相互に作用する」は、「システム」の定義である。「システム」はギリシャ語のシン(共に)とエステム(立てる)の複合語で「多要素の結合(関連)」を意味する。

ここでの「プロセス」は、「インプットをアウトプットに変換する、相互に関連する又は相互に作用する一連の活動」と定義される。「インプットのアウトプットへ変換」は、狭義のシステム定義であり、一つの作業工程を

●本稿の内容は、筆者の個人的見解であり、必ずしも筆者が所属する組織の見解ではない。

<sup>1</sup> 「リスクマネジメントー用語 JIS Q 0073:2010(ISO Guide 73:2009)」日本工業標準調査会 審議

<sup>2</sup> 「情報技術ーセキュリティ技術ー情報セキュリティマネジメントシステムー用語 JIS Q27000:2014」日本工業標準調査会 審議

指し、複数の作業工程がインプットとアウトプットにより相互に関連する構造を表している。「目的を達成するため」とは、目的と実績の乖離を是正するPDCAサイクルを指す。

## 2.4 PDCAサイクル<sup>3</sup>

目標を設定してその実行計画 (Plan) を立案し実行 (Do) し、実行結果と計画 (目標値) との乖離 (誤差) を測定して評価 (Check) する。計画 (目標値) と実行結果に乖離 (誤差) があった場合には、是正措置・対策 (Act) を講じる一連のプロセスをPDCAサイクルという。

実行結果をチェックして次の改善活動に結びつける仕組みをフィードバック・システムと呼び、「マネジメント (管理)」の基本的な考え方である。

1950年代、品質管理の父といわれるW・エドワード・デミング博士が、生産プロセス (業務プロセス) の中で継続的に行うために改善プロセスが連続的なフィードバックループとなるように提案した。

PDCAサイクルは、第二次世界大戦中にドイツのフォン・ブラウン博士が、ロンドン攻撃のために開発したV2ロケット兵器の技術として発明した自動姿勢制御機構 (フィードバック制御=PDCA) がPDCAの起源となる。図1。

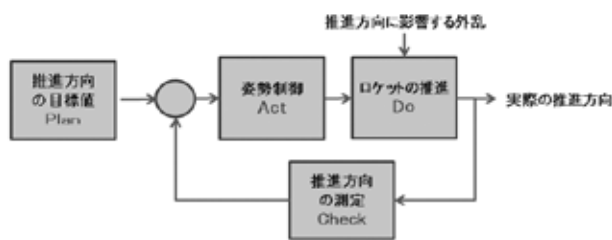


図1. V2ロケットの自動姿勢制御機構

1916年、H.ファイヨールは、著書「産業並びに一般の管理 都筑栄訳」の中で「管理とは、予測し、組織し、命令し、調整し、統制すること」と定義した。この「統制」が、後に「PDCA」と融合しマネジメントシステムと

して確立した。図2。

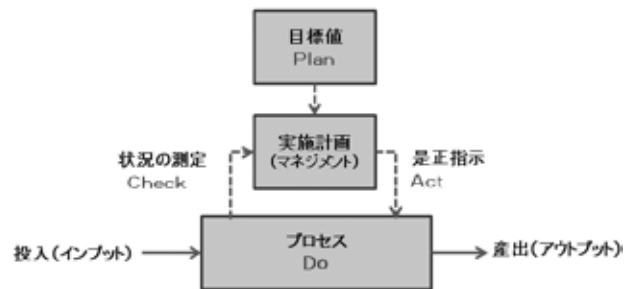


図2. PDCAサイクルの経営学への応用<sup>4</sup>

PDCAサイクルの考え方は、製造プロセス品質の向上や業務改善などに広く用いられており、情報セキュリティマネジメントシステム (ISO27001) や個人情報保護マネジメントシステム (JISQ15001) の基礎となるマネジメントの仕組みである。

この意味で、リスクマネジメントもマネジメントシステムの範疇と考えて良く、PDCAサイクルの考え方を取り入れている。

## 3. リスクの特定に先立ち現状把握を行う

情報を適切に管理するためには、まず管理すべき対象となる情報資産を明確にするところから始める。

K.E.ボールディングは、一般システム理論<sup>5</sup>でシステムの複雑さに応じて階層 (レベル) を整理したが、その中でシステムの第一レベルが、静的構造としての管理対象の全体像の把握である。これを枠組みのレベルと呼ぶ。「リスクマネジメントの枠組み」と同様に全体像を規定することを指し、具体的には、対象要素を一覧表にまとめたり、図に書いたりして検討範囲を限定することを目的としたアプローチである。

### 3.1 情報資産の棚卸

具体的な進め方としては、各部署で通常業務の基点から終点までを点検し、情報資産が「どこに」「どのような管理状態で」取り扱われているか、情報のライフサ

<sup>3</sup> JNSA PRESS VOL.41 職場の5Sで考える情報セキュリティ 野津秀穂 2016年

<sup>4</sup> 企業活動のモデル「企業戦略論」 H.I. アンゾフ 著、広田寿亮 訳、産業能率大学出版部 1985年

<sup>5</sup> “General System Theory: The Skelton of Science”, Management Science, Vol.2, No3. K.E Boulding 1956年

イクルに沿って明確にする。ここでの注意点としては、通常業務中の重要情報を優先して洗い出すことである。情報は日々生まれるため、洗い出し作業に没頭すると、いつまで経っても終わることなく、次のリスク分析やリスク対策のフェーズに進むことができなくなり、初めの一步で挫折する典型的なパターンに陥る。

どのような情報をどのような単位で抽出すればよいか、例えば、「電子ファイルはファイル単位ごとに洗い出さなければならないのか」などの統一基準を予め決めてから調査を開始する。個人ごとに担当する業務を洗い出したら、各部署ごとに集約し重複した業務を整理し、一覧表にまとめる。

### 3.2 不要な情報資産の整理

「過去は利用していたが、現在では特に利用していない」（廃棄忘れ情報）や「原本が他の部門にあり複写を持っているだけ」（不適切な配布・コピー情報）、また「マスターとなるデータベースから業務の利便性向上のために個人的に加工し保管している情報」（不用意な再利用情報）などは、情報管理の方法や責任ならびに保管・廃棄のルールが不定な場合がある。このような情報については、情報漏えいのリスクを多く抱えていることから、「本当に当該情報は保有すべきなのか」を綿密に議論したうえで、適切な処置（廃棄・回収等）を講じる必要がある。

### 3.3 業務の全体像の把握（フロー図の作成）

管理対象の情報資産を洗い出したら、次に、個々の情報資産の関係を明確にする。

情報資産を取得してから、返却・廃棄するまでの流れ「情報のライフサイクル」をフロー図にして確認する。K.E.ボーディングの一般システム理論では、第二のレベルとして「予定通りに動く単純なシステム」いわゆる「時計仕掛けのレベル」としての「プロセス」を図式化する作業に相当する。「時計仕掛けの仕組み」とは、投入（インプット）が予め定めた手順によってプロセス（作業工程）から産出（アウトプット）される仕組みをいう。

情報のライフサイクルとは、特定した情報が社内に入ってから出て行くまで、「取得・作成」→「処理・加

工」→「保管・バックアップ」→「移送・送信」→「返却」→「消去・廃棄」という、情報の取扱の流れを指す。続くリスク認識は、情報のライフサイクルの全ての局面ごとに検討する必要がある。

フロー図（フロー・ダイアグラム）

フロー図は、情報を取り扱う各局面（プロセス）に対して、情報がどこから来るか（インプット）と、どこへ行くか（アウトプット）を図式化する技法。情報のライフサイクルをフロー図にするためには、一つ一つのプロセスをインプットとアウトプットでつなげて全体像を記述する。

インプット → プロセス → アウトプット

〔参考〕類似の手法に流れ図（フロー・チャート）がある。フロー・チャートは、プロセス内の処理内容の順序や判断分岐を記述することに特徴を持つ、主にプログラム構造を記述するために使う手法である。

この作業により、得意先と自社の各部門、委託先の間で、情報の流れを具体的に把握でき、業務の内容と責任範囲を明確にすることができる。

「情報のライフサイクル」によっては、委託や提供など情報が社外に渡る場合、倉庫やデータセンターなどロケーションが異なる場合や、委託先とのやりとりや支店間の輸送において外部に依頼する場合もある。

作業工程を経るごとに、管理責任部門が変わることがあるので、工程間の情報の授受については、特に責任を明確にすることが重要なポイントとなる。例えば、情報を移送する場合、前工程が送信（届ける）のか、後工程が受信（取りに行く）のかなど責任の所在を確認する必要がある。

印刷業におけるダイレクトメール発行業務を例としたフロー図を図3.に記す。



「目的」：組織のオペレーションを守ること<sup>8</sup>。PDCAのPlanを達成すること。

「不確かさ」：起こり得る事象、結果、起こりやすさに関する情報、理解若しくは知識が、たとえ部分的にでも欠落している状態。

「起こり得る事象 (event)」：好ましくない結果を生む潜在的な原因。リスク事象 (ペリル peril) はリスク源によって引き起こされる。

例) 不正アクセス、盗難、流失、改ざん、紛失、毀損・滅失、破壊、誤用・誤操作、追跡不能

「リスク源」：リスク事象の起こり易さを生む要素。セキュリティホール。危害要因 (ハザード hazard)。

例) ドア、窓などの物理的保護の欠如、監査証跡 (ログ管理) の欠如、アクセス管理の欠如など

「起こりやすさ」：何かが起こる可能性。一般的な用語を用いて示すか、又は数学的に示す。

例) 発生確率。所定時間内の頻度

## 5. リスク分析・リスク評価

特定したリスクを可能な限り定量化する。

「リスク分析」：リスクの特質を理解し、リスクレベルを決定するプロセス。

「リスクレベル」：結果とその起こりやすさの組み合わせで表現されるリスクの大きさ。

「リスク評価」：リスク及び／又はそのおおきさが、受容可能か又は許容可能かを決定するために、リスク分析の結果をリスク基準と比較するプロセス。

「リスク基準」：リスクの重大性を評価するための目安となる条件。

### 5.1 被害の大きさ

リスクの高い個人情報の項目 [被害の大きさ] の例として代表的なものは、特定の機微な個人情報とクレジット

トカード情報がある。(明示的な本人の同意がある場合、法令に基づく場合などを除き) 特定の機微な個人情報の取得利用又は提供を行ってはならない。クレジットカード情報 (カード番号、有効期限等) の漏えいは不正使用によるなりすまし購入などの二次被害が発生につながる。

表1. (相対的な) 被害の大きさの例

分類(例)	(相対的な)被害の大きさ
クレジットカード情報、特定の機微な個人情報	高
一般生活者の個人情報	中
ビジネス・コンタクト情報	低

表1. は相対的な「被害の大きさ」のランクであり、「一般生活者の個人情報」の漏えいより「特定の機微な個人情報」や「クレジットカード情報」の漏えいの方が、「被害は大きい」という比較となる。

「特定の機微な個人情報」や「クレジットカード情報」等を扱っている特定の部門以外では、「一般生活者の個人情報」が「高」になる。

### 5.2 起こりやすさ

「被害の発生の可能性 (発生確率)」でいう確率は、一般的な「客観確率」では測ることができない。

「客観確率」は、繰り返し試行 (過去の実績) によって発生する頻度として確率を求める。この方法で考えると、例えば「個人情報の保管キャビネットを施錠していない」という「弱点 (リスク発生源)」に対して、「盗難」の発生という「脅威 (リスク事象)」が、過去に発生したことがないので発生確率は0、即ちリスクは「ない」となるが、これは誤りである。

リスク分析では、過去に発生していない事象について「発生の可能性」を考える。例えば前例の「個人情報の保管キャビネットを施錠していない」は、「常に」盗難の可能性があるので発生確率は「高」と考える。この手法を「主観確率」という。

<sup>8</sup>JNSA PRESS VOL.33 セキュリティ実現の原点から見た内部不正要因事故抑制手法 甘利康文、新井真司、内田順一 2012年

表2. 被害発生の可能性（発生確率）の例

分類(例)	被害発生の可能性(発生確率)
常態化している(いつでも起きる可能性がある)	高
ミス(たまに起きる可能性がある)	中
不正事件(意図的に起こす可能性がある)	低

### 5.3 リスク評価

リスクは、「被害の大きさ」と「被害の発生の可能性（発生確率）」の組み合わせで評価される。

このように「被害の大きさ」と「発生の可能性」二つを考慮したリスクのランク付けを行い、放置することによる事業活動への影響や、現実化したリスクへの対応（必要の有無／優先順位）を決定する。

「ビジネス・コンタクト情報」であっても、直接ビジネスがある得意先担当者の名刺情報（自社案件）と、得意先が保有すると得意先の取引情報（受託案件）とでは、「漏えい」した場合などの「被害の大きさ」には差がある。謝罪の他、事実の公表、所轄官庁への届け出が必要となる場合がある。

表3. (相対的な) リスク評価の例

(相対的な) 被害の大きさ	被害発生の可能性 (発生確率)	リスク評価 (ランク)
高 クレジットカード情報 特定の機微な個人情報	高(いつでも起きる可能性)	高
	中(たまに起きる可能性)	高中
	低(意図的に起こす可能性)	高低
中 一般生活者の個人情報	高(いつでも起きる可能性)	高中
	中(たまに起きる可能性)	中
	低(意図的に起こす可能性)	中低
低 ビジネス・コンタクト情報	高(いつでも起きる可能性)	高低
	中(たまに起きる可能性)	中低
	低(意図的に起こす可能性)	高低

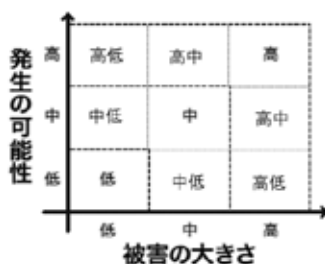


図5. リスクマトリックス

「被害の大きさ」と「発生の可能性」の組み合わせを図5. のようにリスクマトリックスで表す。

実際に発生すると、どれひとつでも、重大な被害に至る可能性を残しているが、だからといって、「高」の判定が多いと、優先して対策すべき対象が判断できない。ここでは、リスクの順位付けを行い、リスク対策の優先順位を検討するためのインプット情報となるよう意識してランク付けをする。

ハインリッヒの法則<sup>9</sup>では、被害の大きさが「低」の軽微なミスや「ヒヤリ・ハット」でも、発生の可能性が大きい異常は、重大な事故の前触れであり、優先対策課題と教えている。このように、実際のリスク評価では、よりきめ細かい考察が必要となる。

## 6. リスク対策

リスク分析により“対策を施すべき”とした「リスク」について、組織的、人的、物理的、技術的な観点から費用、構築の容易さ、運用の容易さ、効果等の観点から実効性のある対策が必要となる。

K.E.ボールディングの一般システム理論では、第三のレベルとして「サーモスタット」を代表例とする「制御機構またはサイバネティクス・システム」を掲げており、リスク対策の設計に有効な考え方である。

炬燵のサーモスタットのフロー図を図6.に例示す。

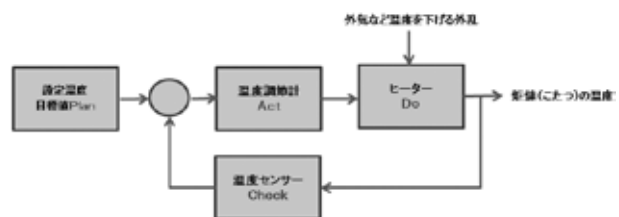


図6. サーモスタットのフロー図

サーモスタットは、測定した温度が、設定温度に等しくなると、ヒーターはOFFになり、そこから温度低下が始まる。温度が低下すると再びヒーターがONになり、設定温度を維持するよう動作する。設定温度（Plan）に

<sup>9</sup> ハインリッヒ研究会編訳「ハインリッヒの事故防止」1956年



対しヒーターをON (Do) し、測定温度と設定温度 (目標値) との乖離 (誤差) を測定して評価 (Check) し、設定温度 (目標値) と測定温度に乖離 (誤差) があつた場合には、是正措置・対策 (Act) を講じるフィードバック制御を行っており、これはPDCAサイクルである。ここで一般システム理論とマネジメントの仕組みが一致していることを確認できる。原初的なPDCAは、結果を見てからの後追いの対策になり、目標値と結果に差異が生じないと是正指示 (改善) が生まれない。そこで、目標を達成した際には、更に高い目標を設定して、改善活動を推進する。これが「PDCAサイクルをスパイラル的に継続する」意義となる。

\*より高度なPDCAでは、後追いの対策だけではない。印刷機の制御部などで導入されているPDCA (制御機構) では、

- (1) 目標値と実際の差を是正する機構 (比例制御)
  - (2) 過去の実績を反映する機構 (積分制御)
  - (3) 先を予測する機構 (微分制御)
- の組み合わせで定常的な目標達成を行っている。

リスク低減のためのアプローチとして、[被害の大きさ] を低減させる、または、「被害の発生の可能性 (発生確率)」を低減させることを検討する。

### 6.1 [被害の大きさ] の低減

被害が発生しても、被害が拡大しない対策を「ダメージ・コントロール」と言い、改善活動の一種である。

「人は間違える」と言う発生の可能性を確実に低減することは、できない。間違えても被害を及ぼさない対策としては、例えば

- ① 誤入力が発生しても、二重入力により間違いを発見して次工程に正しいデータを送る。
- ② 紛失が発生しても、データを暗号化することにより、拾得者が不正にデータを使えない。

### 6.2 [被害の発生の可能性 (発生確率)] の低減

リスク発生原因を除去することにより、発生させない (または発生しにくくする) 方法を検討する。

リスク発生原因の影響を受けない対策としては、例えば

- ① 保管キャビネットを常時施錠し、鍵管理することにより不正持ち出しを排除する。
- ② 入退出セキュリティ設備を導入し、不正侵入者による盗難を防止する。

フロー図では、「弱点への影響 (外乱)」を除去する「フィルター (雑音除去装置)」を挿入する。

リスク発生原因を除去する対策を「リスク回避」といい、構造改革の一種である。

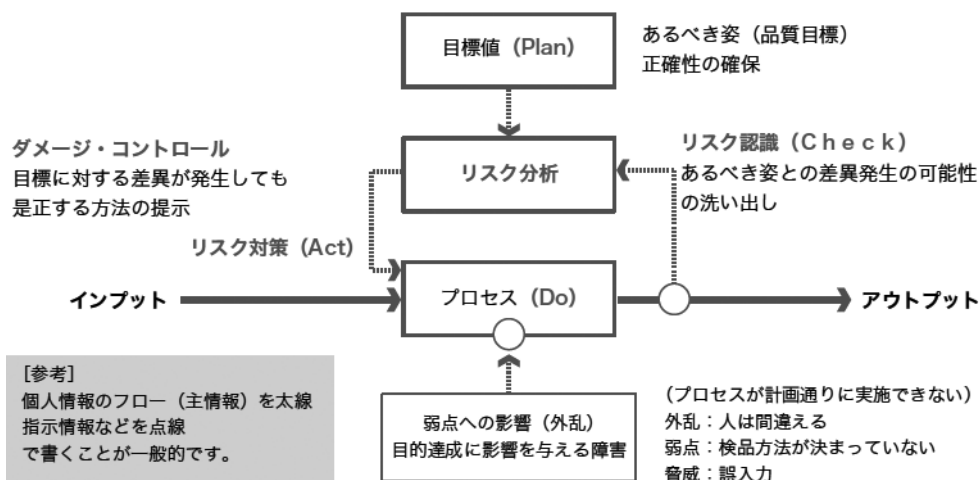


図7. [被害の大きさ] の低減対策を加えたフロー図

### 6.3 「被害」の補てん

被害が発生した場合、経済的な被害について補てんするために、「個人情報漏えい保険」に加入することにより、個人への補償を用意している会社の姿勢（取り組み）も“見える化”できる。この対策を「リスク・ファイナンス」といい「リスク移転」の一種である。リスクは移転しても、なくなる。ビジネス全体から顧客視点（生活者視点）に立ち、真のソリューション（解決策）検討が必要となる。

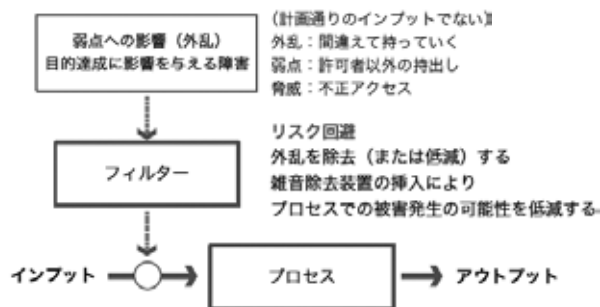


図8. [被害の発生の可能性]の低減対策を加えたフロー図

### 6.4 残存リスクの認識

現状で可能な限りの対策を講じた上で、未対応部分については残存リスクとして把握し、管理する必要がある。これを「リスク受容」という。

### 6.5 「緊急連絡網」の整備

想定外事象への対応として「緊急連絡網」を整備したり、危機管理計画を策定する。この対策を「クライシス・マネジメント」という。

## 7. セキュリティ・バイ・デザイン

とりあえず実施（Do）して、点検（Check）の結果、目標との間に差異があったら見直し（Act）するという、後追いの活動では、毎日が事故だらけで、不良品検品に終始することになってしまう。

実施に先立ち、セキュリティ対策を組み込んだ計画を検討しルール化しておくことが必須となる。この取組をセキュリティ・バイ・デザインという。

実施計画立案にあたり、目標値どおりに行かない場合を事前に想定する（リスク認識）。このリスクがプロ

セスに及ぼす影響を想定し（リスク分析）、この結果、対策を定めてルール化（リスク対策）する。これは、事前想定でPDCAを回すことを意味し、フィードフォワード制御の考え方の導入が求められる。

実作業開始後には、事前計画（リスク対策）通りに進行しているか？について、実際の状況を点検し、もし目標値との間に差があれば、是正するフィードバック制御（PDCA）と事前計画のフィードフォワード制御は、両方を組み合わせて使うことが重要である。図9

## 8. リスクの定期的見直し

リスクは環境の変化（受注量や生産量の拡大等も含む）や技術の進展等により常に変動する。従って定期的な見直しは必須であり、必要に応じて随時見直しを行うこともルール化する。ある部門で顕在化したリスクやヒヤリ・ハットが他の部門でもあてはまる場合がある。そのような時は、顕在化した部門内での見直しに止まるのではなく、情報を共有化する。定期的な見直しでは、目標値設定のレベルアップにも取り組む。

## 9. おわりに

本稿では、リスクマネジメントについて、マネジメントシステムの考え方とK.E.ボールディングの一般システム理論の考え方と照合し、共通する考え方を体系的に整理した。リスクマネジメントが何を意図しているかを理解し、実践する上での一助になれば幸いである。

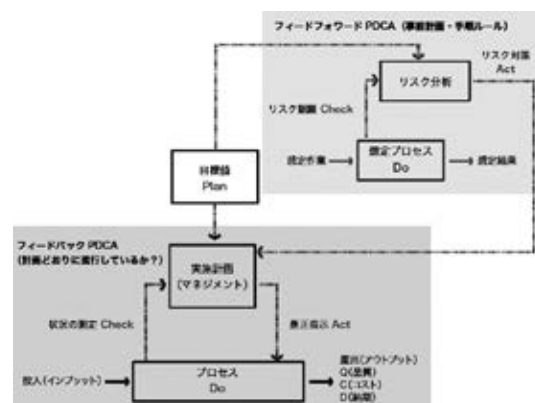


図9. 事前想定をPDCAを加味したフロー図

# JNSA 教育部会・JNSA ゲーム教育プロジェクト

JNSA 教育部会 ゲーム教育 WG (旧講師スキル WG)  
 (ゲーム教育プロジェクト)  
 リーダー 長谷川 長一

## ■ 当プロジェクトの概要

このプロジェクトは、JNSA教育部会とU40部会の共同プロジェクトとして昨年誕生しました。当プロジェクトでは、ゲームを活用した情報セキュリティの普及啓発、実践的セキュリティ教育の調査・研究、企画等の活動をしています。対象となる領域としては、ITの知識をほとんど持っていないリテラシー的な層と、ある程度の知識を持っている中核的専門人材層に分けられます。前者は情報セキュリティの普及啓発、後者は情報セキュリティ知識・技術の実践的な教育となります。

これらの層に対し、ゲームを活用した振り返り教育とそれができるファシリテーターの育成を検討しています。そのために、大学等の高等教育機関で実証実験教育という形でゲーム教育を実施し、その効果を検証しています。併せて、ゲームを活用した振り返り教育の普及・促進を図るため、イベントの企画・実施を計画しています。

## ■ 当プロジェクトで企画・制作したゲーム

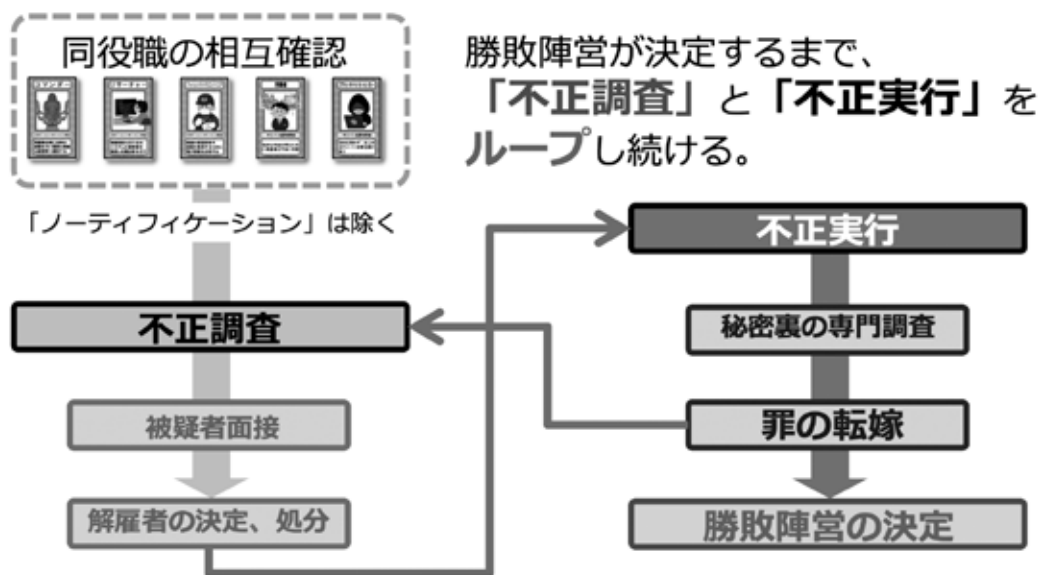
さらには、JNSAとしてゲームを企画・制作しましたので、紹介させていただきます。

### 1. 「セキュリティ専門家人狼ゲーム」 (略称:セキュ狼)

セキュリティ専門家人狼ゲームとは、参加者は役割に応じて、セキュリティ専門家陣営とサイバー犯罪者陣営に分かれます。分析のターン(話し合い)と取り締まりのターン(役職の能力発揮)を繰り返して、自分の陣営を勝利に導くのが目的のゲームです。

去る1月23日(月)の「Network Security Forum 2017」では、セキュ狼のお披露目を行い、聴講者の皆様にプレゼント、7人の方に参加いただき、デモプレイを行いました。また、1月29日(日)には、「SECCON 決勝大会」での展示と、ゲーム体験会とプレゼントを行いました。体験会は多めに盛り上がり、プレゼントとして用意したセキュ狼が昼過ぎになくなるという事態に…。(急遽、追加でプレゼントをご用意しました)

## 「セキュリティ専門家人狼ゲーム」のゲームフロー





「セキュリティ専門家 人狼ゲーム」Twitterアカウント (@Sec\_JINROH) も開設しました。ハッシュタグは、「#セキュ狼」です。

## 2. 「Containment (封じ込め)」：制作中、 来年度Q1リリース予定。

このゲームは、外部からの通報を受け、PC端末を調査し、マルウェアに感染した端末を特定、「封じ込める」までの初動対応をイメージしたゲームです。社内環境にマルウェアが仕込まれており、自身のターンで、各役職に応じた能力に応じて、PC 端末を調査し、感染した端末を隔離します。プレイヤーは、各部署への移動や役職固有の能力を駆使し、8枚の端末カードの中から2枚の遠隔捜査カードを発見し、封じ込めることができれば勝利となります。ゲーム中は会話が制限され基本的に同じ部署にいるメンバー間でしか、情報交換できないルー

ルで、自らの役割と能力を理解し迅速に情報連携する事が勝利の鍵となります。



企業において情報セキュリティを実践的できる人材が求められている現在、実践的セキュリティ教育が必要とされています。そのためには、様々な体験学習が効果的かつ不可欠です。その中でもゲーム学習は、安全にチャレンジし、失敗することができる、そして短い時間で体験学習ができる教材です。情報セキュリティの教育は、一般の人にとっては我々が思う以上にハードル高いものです。その敷居を下げる工夫の1つがゲーム学習であると考えています。

ぜひ、皆様も、まずはゲーム教育を体験してみてください。そして、今後も我々の活動にご注目ください。

## JNSA ワーキンググループ紹介

## JNSA ソリューションガイド活用 WG

株式会社アズジェント  
WGリーダー 秋山 貴彦

## ■ はじめに

JNSAソリューションガイド活用WGでは、JNSAソリューションガイド (Webサイト) を活用し、年間の活動を通じて会員企業自身のPRとその企業が有しているソリューションの情報を多くの方々に届けるための企画をこれまで推進してきました。

今回は、最新活動状況とこれまで特集検索ページに公開された内容について簡単にご紹介させていただきます。

## ■ 最新活動

2017年1月にIPA (独立行政法人情報処理推進機構) より『中小企業の情報セキュリティ対策ガイドライン』が公開されました。本ガイドラインを利用しながら情報セキュリティ対策を進めていく中小企業の担当者が、実際に製品・サービスの導入を検討する際に参考となる製

品・サービスの検索ページとしてJNSAソリューションガイドを利用できないか?という打診をIPAより受け、2016年11月より、具体的な検討を開始しました。公開までの流れとWG活動内容は、下段の図となります。

## ■ 特集検索ページのご紹介

特集検索ページでは、標的型対策やマイナンバーといった関心が高いセキュリティ対策をテーマとしたページをこれまで公開して参りましたので、ご紹介させていただきます。

## 【公開されている特集ページ】

- IPA「中小企業の情報セキュリティ対策ガイドライン」対応 製品・サービス検索を公開
- マイナンバー技術的対応製品・サービス検索
- 中小企業向けこれだけはやっておくべきITセキュリティ対策
- 今、企業がすべき標的型メール攻撃対策

## 【公開までの流れ】



公開までの流れ	WG 活動内容
1. 目標設定	本ガイドラインと連動した検索ページの作成を目標として WG メンバーを招集
2. 検討	ガイドラインの理解を深める
	JNSA ソリューションガイドとの連動のさせかたの検討
	掲載内容の検討
3. 構成・作成	Web 構成検討
	Web 構成決め
	Web 作成
4. チェック	作成された Web の内容をチェック
5. Web の公開	公開されたことの確認



中小企業が関心の高いセキュリティ対策に関する特集を行うことにより、会員企業が有しているソリューションを紹介する機会を増やすと同時に、IT担当者が具体的な対策を行なうにあたって、どのようなソリューションがあるかを見つける場所としてソリューションガイドを利用して頂ければと考えております。

## ■ 今後の活動について

今後もJNSAソリューションガイド内のコンテンツを拡充していくとともに、今年は、ソリューションガイドへの訪問者数を増やすために必要な課題の洗出し、その課題に対する改善計画を立てていきたいと考えていますので、ご興味をもって頂いた方は、ぜひ、WGメンバーとして参加をお願いします。

最後に、WGメンバー、事務局の皆様には、いつもご協力頂きありがとうございます。この場をお借りして、お礼をさせて頂くとともに今後ともよろしく申し上げます。

## ■ WGメンバーリスト（社名昇順）

氏名	所属
秋山 貴彦	(株) アズジェント
菅野 泰彦	アルプス システム インテグレーション (株)
松田 剛	(株) インテリジェントウェイブ
堺 寛	NTTソフトウェア (株)
小屋 晋吾	トレンドマイクロ (株)
萩原 健太	トレンドマイクロ (株)
扇 健一	(株) 日立ソリューションズ
山田 隆志	ユニアデックス (株)
清水 哲也	ユニアデックス (株)

# 会員企業ご紹介 43

アクセンチュア株式会社  
<https://www.accenture.com/jp-ja/>



アクセンチュアは、お客様のビジネス変革を支援する総合コンサルティングを提供するグローバル企業です。さまざまな産業領域・業務領域において、ビジネスとテクノロジーを融合させるとともに、デジタルの新たな力を取り込むことで、お客様のハイパフォーマンスを実現します。

## お客様の変革プロジェクトをエンド・ツー・エンドで支えるアクセンチュアのサービス

アクセンチュアは、変革のプロフェッショナルです。戦略家として変革の道筋を描くだけではありません。変革の道のお客さまと一緒に走り、障害を乗り越えてゴールを共に目指す、実務家でもあります。そしてゴール地点では、お客さまに確かなビジネス成果をお渡しします。



## 世界120か国以上で5,000を超えるアクセンチュアのお客さま

取引規模上位100社との  
関係継続期間は

5年以上



取引規模上位100社中、  
98社との関係継続期間は

10年以上



お客さまとの信頼関係は、アクセンチュアの最も重要な資産です。アクセンチュアはお客様さまが最高のビジネス・パフォーマンスを達成できるよう支援し、協働することで、お客さまのビジョンの実現と一緒に取り組みます。それにより深い信頼関係を構築し、世界で5,000社を超える幅広い業界のお客さまに、多岐におよぶサービスを長期にわたって提供しています。

FORTUNE100社のうち、  
アクセンチュアのお客さまは

94社



FORTUNE500社のうち、  
アクセンチュアのお客さまは

75%以上



お問い合わせ

アクセンチュア株式会社

本社 〒107-8672 東京都港区赤坂 1-11-44 赤坂インターシティ TEL : 03-3588-3000(代表)

お問い合わせフォーム : [https://accenture.t-mark.com/im\\_contact/contact/index](https://accenture.t-mark.com/im_contact/contact/index)

世界をつなぐ網、人と人をつなぐ網

網屋の「網」は、ネットワーク網&セキュリティ網に由来しています。お客様でさえまだ想像しえない未来型ICTセキュリティインフラを、人と人をつなぐ網として社会に貢献していきます。

SAP(Security Audit Product)事業

SAP事業が手掛ける「ALogシリーズ」の主力製品「ALog ConVerter」は、重要データが格納されているサーバ側のログを記録するサーバアクセスログソフトウェア製品です。

完全自社開発にてビジネスをスタートし、発売以来サーバログ市場を常にリードする製品として国内シェアトップの実績を誇ります。

ALogシリーズは、専門の技術者の労力を介さずに、情報資産に対する内外のアクセスを一元的に記録できるため、必須のセキュリティ対策として国内はもちろん海外市場にもビジネスを拡張しています。



IT基盤事業

IT基盤事業は創業期より、ハイエンドのネットワーク通信機器に複合的な専門技術を付帯して、最適なITインフラ環境をお客様にご提供するネットワークインテグレーションの業務に従事してまいりました。

昨今はこれに加え、専門のネットワーク技術経験を活かした自社商品として「ネットワーククラウドソリューション」を立ち上げ、あらゆるネットワーク機器をクラウド(リモート)でコントロールするサービス「Verona」と「Hypersonix」を手掛けています。

ゼロコンフィグでセキュア通信が実現

<b>速い</b> 最短3営業日	<b>簡単</b> LANに挿すだけ	<b>固い</b> 抜群セキュリティ
---------------------	-----------------------	-----------------------



製品・サービスに関するお問い合わせ

株式会社網屋 営業本部  
SAP事業: 03-6822-9996 bv-sales@amiya.co.jp  
IT基盤事業: 03-6822-9995 infra-sales@amiya.co.jp





宝情報は、製品を導入いただいた顧客が実際に効果が得られるよう、製品導入時の初期設定や設置、導入後のアフターサービスまで一貫した実施を心がけています。単なる製品の販売にとどまらず、顧客の立場に立った真に必要なとされるトータルセキュリティサービスを提供しております。

## ディストリビューター & 製品サポートサービス



Check Point UTM 700Series



WatchGuard NGFW M-Series



F-Secure PSB

### ディストリビューター事業

メーカーより情報セキュリティ商材を仕入れ、国内代理店様に拡販いただくための

- (1) 営業 / 技術トレーニング
- (2) 営業 / 技術資料の配信
- (3) 代理店様 / エンドユーザー向けセキュリティセミナーの開催
- (4) 販売に集中したい代理店様向け NTT-FT UTM 設置サービスなどの支援を行っています。

### サポート事業

導入済みの製品について

- (1) 遠隔操作による設定変更
- (2) レポートを代理店様に配信
- (3) 任意の条件でアラート発信などを実施するサポートサービスがお客様より非常に好評を得ています。

## セキュアな情報ネットワーク基盤の構築



NGFW Check Point 5000 Series (+Sandbox License)



WatchGuard Cloud-Managed AP



WatchGuard NGFW M-Series

### 様々な要件に合わせたセキュアネットワークインフラの敷設

[ 暗号化通信の検査 ][ 標的型攻撃対策 ][ ランサムウェア ][ 無線 LAN 環境の不正侵入 ] など、次々に発生する情報セキュリティの課題やキーワードに対して、宝情報は有効なセキュリティ機器や運用方法の提案など、情報セキュリティ基盤構築のお手伝いをしています。

宝情報は、特定メーカーに依存していません。

お客様の規模・運用体制・要件にいちばん合う製品・運用方法・サポートの組合せを提案致します。

#### ◆大阪本社

〒530-0001 大阪府大阪市北区梅田 2-2-2  
ヒルトンプラザウエストオフィスタワー 14F

#### ◆東京支店 ◆福岡支店

宝情報では、販売店としてご協力いただける事業者様を募集しています。当社取り扱い製品もしくは販売店制度についてのご質問は下記よりお問い合わせください。

<http://www.takarajoho.com/contact>

Mail: [toiawase@takarajoho.com](mailto:toiawase@takarajoho.com)

## JNSA 会員企業のサービス・製品・イベント情報

### ■製品紹介■

#### ○Blue Coat/Symantec CASB

Blue Coat/Symantec CASBは、①Visibility (抑止のための可視化) ②Compliance (制御のための監査とコントロール) ③Data Security (暗号化/DLP) ④Threat Protection (マルウェア、ランサムウェア対策) の4つの機能を提供します。またデータサイエンス、マシーンラーニング、ディープコンテンツインスペクションのエンジンを実装し、美しく・直感的に理解し利用できる優れたユーザーインターフェイスを有しています。

#### 【製品情報詳細】

<https://www.nissho-ele.co.jp/product/bluecoat/casb.html>

#### ◆お問い合わせ先◆

日商エレクトロニクス株式会社  
ネットワーク&セキュリティ事業本部  
セキュリティ事業部  
TEL: 03-6272-5281  
E-Mail: [cyber\\_security@nissho-ele.co.jp](mailto:cyber_security@nissho-ele.co.jp)

#### ○WatchGuard Thread Detection and Response(ウォッチガードTDR)

TDRは、セキュリティアプライアンスとエンドポイント(センサーモジュール)からのイベント情報を収集し、クラウド上の管理基盤上で脅威インテリジェンスとの相関分析、脅威情報のスコアリング、重要度による優先付けを行い、エンドポイントの自動対応を可能とするセキュリティ強化からレスポンスまで対応可能なソリューションです。PC上のホストセンサーはスタンドアロン環境でも有効なランサムウェア防御機能が含まれます。

#### 【製品情報詳細】

<https://www.watchguard.co.jp>

#### ◆お問い合わせ先◆

ウォッチガード・テクノロジー・ジャパン株式会社  
営業部  
TEL: 03-5797-7205  
E-Mail: [jnpsales@watchguard.com](mailto:jnpsales@watchguard.com)

#### ○WebAlarm「貴社のWebサイトは安全ですか？」

サイバー攻撃にて、マルウェアを潜伏され、知らぬ間に有害サイトへの踏み台にされていたり、利用者へウイルスをまき散らしていたり、そんな脅威を5つの機能で完璧に防御。

専門要員は不要でサーバーへ導入いただくだけです。未知のマルウェアは、ウイルス対策ソフトや今までのセキュリティ対策では完全に防ぐことはできません。被害者(=利用者にとっては加害者)になる前に!

#### 【製品情報詳細】

<http://www.elock.co.jp/webalarm/solutions1.html>

#### ◆お問い合わせ先◆

イーロックジャパン株式会社  
TEL: 03-3265-1169  
E-Mail: [webalarm-support@elock.co.jp](mailto:webalarm-support@elock.co.jp)

## イベント開催の報告

## Network Security Forum 2017

2017年1月23日（月）、東京・ベルサール八重洲にてJNSA主催シンポジウム「Network Security Forum 2017」が開催されました。サイバーセキュリティ戦略本部、総務省、経済産業省、独立行政法人 情報処理推進機構のご後援のもと、当日はのべ216名の参加者をお迎えし、盛況のうちに開催されました。

本セミナーでは、情報セキュリティ分野における時事に即したトピックについての講演、JNSAの部会、WG活動におけるテーマを中心にセッションを展開しました。

基調講演では奈良先端科学技術大学院大学教授の門林 雄基氏をお迎えし、「規制、イノベーション、協調：サイバーセキュリティ成熟度向上へのアジェンダ」についてご講演いただき、さらに特別講演として、株式会社ディー・エヌ・エーのシステム本部セキュリティ部部長 茂岩 祐樹氏より「経営に求められるセキュリティの在り方」をお話いただきました。

また、脅威予測を発表されている複数のベンダーによるパネルディスカッションや教育部会によるカードゲームを使ったワークショップなども行われました。

各講演の資料（一部を除く）はJNSAのWebサイトで公開していますのでぜひご覧下さい。

<http://www.jnsa.org/seminar/nsf/2017/pro.html>



門林教授の基調講演



パネルディスカッションの様子



ワークショップ「セキュリティをゲームで学ぼう」の様子

## Network Security Forum 2017 (NSF 2017) &lt;プログラム&gt;

2017年1月23日(月) 会場:ベルサール八重洲

<b>Room2 + 3(定員 150名)</b>	
<b>[S1] 基調講演 10:00-11:00 (60分)</b> <b>規制、イノベーション、協調:サイバーセキュリティ成熟度向上へのアジェンダ</b> 奈良先端科学技術大学院大学 情報科学研究科 教授 門林 雄基 氏	
休 憩	
<b>[S2] 特別講演 11:10-12:00 (50分)</b> <b>経営に求められるセキュリティの在り方</b> 株式会社ディー・エヌ・エー システム本部セキュリティ部部长 茂岩 祐樹 氏	
休 憩	
<b>トラック 1 (Room4+5 / 定員 150名)</b>	<b>トラック 2(Room2 + 3/ 定員 150名)</b>
<b>[A1] パネルディスカッション] 13:00-14:50 (110分)</b> <b>ベンダー各社が予測する、2017年の脅威!!</b> モデレーター:丸山 司郎 氏 (株式会社ベネッセインフォシエル/社会活動部会長) <b>&lt;パネリスト&gt;</b> ・株式会社カスペルスキー 情報セキュリティラボマルウェア リサーチャー 石丸 傑 氏 ・トレンドマイクロ株式会社 上級セキュリティエバンジェリスト 染谷 征良 氏 ・パロアルトネットワークス株式会社 Unit42/サイバースレットインテリジェンスアナリスト 林 薫 氏 ・マカフィー株式会社 プロフェッショナルサービス本部 小川 泰明 氏	<b>[B1] 13:00-14:00 (60分)</b> <b>電子署名 WG セッション</b> <b>PDF長期署名プロファイルの国際標準化を振り返って</b> 佐藤 雅史 氏 (セコム株式会社 / 電子署名 WG サブリーダー)  <b>リモート署名の検討状況</b> 小川 博久 氏(みずほ情報総研株式会社 / 電子署名 WG サブリーダー)  休 憩 <b>[B2] 14:10-14:50 (40分)</b> <b>「セキュリティ対応組織の教科書 v1.0」の公開</b> 阿部 慎司 氏 (NTT セキュリティ・ジャパン株式会社 / ISOG-J メンバー)
休 憩	
<b>[A2] 15:00-15:50 (50分)</b> <b>IoT セキュリティの課題と解決策</b> <b>～ JNSA IoT Security WG の試み～</b> 松岡 正人 氏 (株式会社カスペルスキー / IoT セキュリティ WG リーダー)	<b>[B3] 15:00-15:50 (50分)</b> <b>「良い職場環境」が悪い方向に転がらないようにするために</b> 甘利 康文 氏 (株式会社セコム / 組織で働く人間が引き起こす不正・事故対応 WG リーダー)
<b>[A3] 15:50-16:20 (30分)</b> <b>JNSA 情報セキュリティ市場調査 2015年推定実績速報</b> 木城 武康 氏 (株式会社日立システムズ / セキュリティ市場調査 WG リーダー)	
休 憩	
<b>[A4] 16:30-18:00 (90分)</b> <b>【ワークショップ】セキュリティをゲームで学ぼう!</b> 長谷川 長一 氏 (株式会社ラック / 講師スキル WG リーダー) 青木 翔氏 (JPCERT コーディネーションセンター / 講師スキル WG メンバー) 林 憲明 氏(トレンドマイクロ株式会社 / 講師スキル WG メンバー)	

## JNSA賀詞交歓会・JNSA賞表彰式のご報告

## 賀詞交歓会

恒例のJNSA賀詞交歓会は、2017年1月23日（月）、東京・ベルサール八重洲にて開催されました。今回は約150名の方にご参加いただき、大変盛況な会となりました。

冒頭、JNSA会長 田中英彦氏より開会の挨拶を申し上げ、来賓としてお招きした経済産業省大臣官房サイバーセキュリティ・情報化審議官 伊東寛氏よりご挨拶を頂き、独立行政法人情報処理推進機構 理事長 富田達夫氏による乾杯のご発声のもと、開宴しました。

会の中盤で、内閣官房サイバーセキュリティセンター 内閣審議官 三角育生氏、総務省情報流通行政局官房審議官 吉岡てつを氏よりご挨拶を頂きました。



内閣官房 内閣サイバー  
セキュリティセンター  
内閣審議官 三角 育生 氏



総務省情報流通行政局  
官房審議官 吉岡 てつを 氏



経済産業省大臣官房  
サイバーセキュリティ・  
情報化審議官 伊東 寛 氏



独立行政法人  
情報処理推進機構  
理事長 富田 達夫 氏

## JNSA 賞 表彰式

しばらく歓談が続いた後、今回で11回目を迎えた毎年恒例のJNSA賞の表彰式が執り行われました。各賞の受賞者をご紹介後、田中会長から表彰状と記念の盾、副賞が授与されました。

受賞者と受賞理由は以下の通りです。受賞者の皆様、おめでとうございます。

## 個人の部（2件）

## ◇ 国内外の標準化活動を通して広く社会の情報セキュリティ向上に貢献

- 佐藤 雅史 氏（電子署名WGサブリーダー／PDF長期署名プロファイルに関する国際標準化事業プロジェクトリーダー／セコム株式会社 主任研究員）

電子署名WGサブリーダーかつ電子署名WG/PAdESプロファイルタスクフォースリーダーとして、主に電子署名関連規格の国際標準化に携わり、ISO/TC154におけるPAdESプロファイル（ISO14355-3）のエディタを担当し、主導的立場で推進、IS化（国際標準化）への目途を付けた。また、欧州電気通信標準化機構（ETSI）の会議に参加し、JNSAの存在価値を欧州の電子署名専門家知らしめるなど、これら国内外の標準化活動を通して広く社会の情報セキュリティ向上に貢献するとともに、JNSAの知名度向上や活動の活性化に多大の貢献を果たした。

### ◇ JNSA 社会活動部会の部会長としてイベントを企画、認知度向上に大きく貢献

○丸山 司郎 氏 (社会活動部会長／株式会社ベネッセインフォシエル 代表取締役社長)

JNSA社会活動部会の部会長として、メールマガジン・セキュリティしんだん・ライトニングトーク大会・JNSA十五周年地方セミナー・シンポジウムなどを率先して企画してきた。また、通年でのパブコメ対応を行うなどにより、部会ならびにJNSAを活性化させ、JNSA認知度向上に貢献した。

### ワーキンググループ(WG)の部 (1件)

#### ◇ JNSA の社会貢献と知名度向上に大きく貢献

○組織で働く人間が引き起こす不正・事故対応 WG

(WGリーダー：セコム株式会社 甘利 康文 氏)

長年の活動の集約として一昨年「内部不正対策 14 の論点」を出版、ならびに、「日本の人事と内部不正」のインタビューを連載するなど活発な活動を通して、セキュリティ対策の視点として内部不正の重要性を社会に知らしめた事、ならびに、その結果としてJNSAの社会貢献と知名度向上に多大な貢献をした。

### 特別賞 (2件)

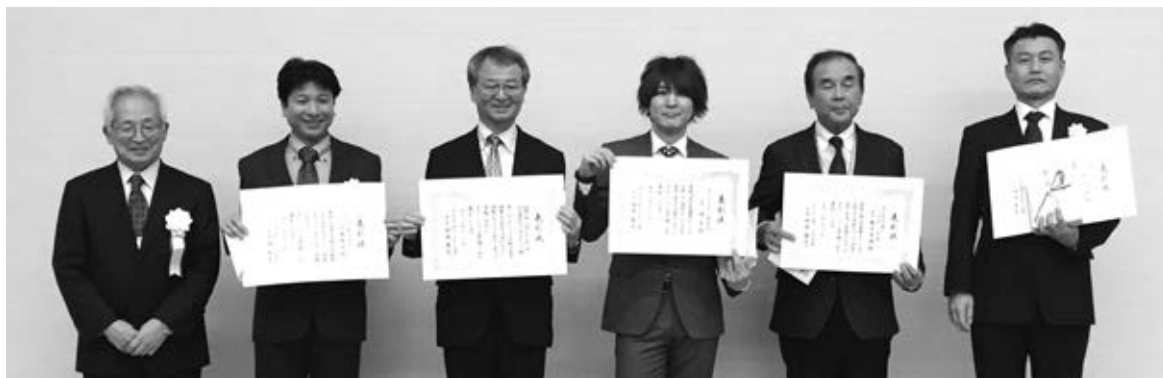
#### ◇ インターネット安全教室を中心とする情報セキュリティ普及啓発活動を活発に実施することにより、広く一般社会のセキュリティ知識の向上に貢献

○特定非営利活動法人シニアネット佐賀(理事長：香月 幸雄 氏)

#### ◇「一人CSIRT」として、情報セキュリティ業界に大きく貢献

○辻 伸弘 氏(ソフトバンク・テクノロジー株式会社 シニアセキュリティエバンジェリスト)

「一人CSIRT」として、個人で公開情報を元に情報セキュリティインシデントの調査を行い、ブログで広く情報公開を行う。ハッシュ値やアクセス先IPなどの積極的な情報の公開は、セキュリティに関する情報共有のあり方に一石を投じつつ、セキュリティの向上に大きく貢献している。<http://csirt.ninja/>



JNSA 賞受賞者の皆さん

## JNSA IoTセキュリティセミナー報告

IoT セキュリティ WG  
日本プロセス株式会社 長坂 啓司

2016年10月26日にJNSA IoTセキュリティWG主催のセミナー「IoTセキュリティセミナー ～IoTの未来とセキュリティの課題～」が、日本IBM本社セミナールームにて行なわれました。

IoTセキュリティWGでは、2016年6月に「コンシューマ向けIoT セキュリティガイド」を発行しました。また、2016年は様々な組織・団体が多様なIoTセキュリティのガイドラインを発行しています。このセミナーでは、パリエティに富んだ講演者とIoTおよびIoTセキュリティに関連する6団体によるパネルディスカッションを通じて、IoTの本格普及に向けて重要となるIoTセキュリティの現状と未来を示すことを目的としました。

当日はIoTセキュリティに対する世間の注目を表す通り、180名以上の参加者が集まり、熱気にあふれたセミナーとなりました。

## 基調講演

ネットワーク観測からわかるIoTのサイバーセキュリティ実情 吉岡克成氏（横浜国立大学准教授）

日本のIoTマルウェア研究の第一人者である吉岡准教授の観測成果では、ネットワーク上のIoT機器は多くの攻撃にさらされており、既にIoT機器がマルウェア感染してそこから別の機器への攻撃が起きているとのことでした。具体的には吉岡准教授が設置した機器には2016年1～6月の期間で約60万台（IPアドレスで区別）、500種類を超える攻撃アクセスがあり、その攻撃は、監視カメラやWi-Fiルータ、デジタルレコーダなどを中心に、駐車管理システムや太陽光発電システムなどのシステム、さらにはMRIなどの医療機器からも行なわれていることが判明しています。攻撃のほとんどはtelnetポートに対するもので、デフォルトまたは弱いパスワード設定のために侵入を許しているとのことでした。

そして、それらの感染した機器を利用したDDoS攻撃も行われており、リオ五輪の時期には500Gbpsクラスの攻撃が頻繁に行われたということでした。

吉岡准教授の観測では、telnet以外にもシステムメンテナンス用のWebインターフェースがインターネットからアクセスできてしまい、非常に脆弱な状態になっている例もあるそうです。特に、Wi-FiルータなどではオンラインマニュアルにID、パスワードが記載されている場合もあり、とても危険だとの話がありました。

情報システムの世界では常識である、telnetポートを閉じる、インターネットに公開するページを限定するといった基本的なルールがIoT機器では守られておらず、既にマルウェア感染が広がっているという実態を聞き、特にその数字に驚きました。吉岡准教授からはこの状況をメーカーの自助努力だけで改善することは難しいだろうとの見込が示され、諸団体が連携して早急にセキュリティ対策の取組みを進めていく必要があると感じました。

## ゲスト講演

新たな生命体「ロボット」が直面した既存社会のセキュリティ 太田智美氏（ロボットパートナー）

講演者の太田氏はPepperとともに生活しており、今回の講演ではそのロボットパートナーとしての生活で直面した課題がいくつも紹介されました。Pepperと一緒に新幹線に乗る、Pepperと一緒に車椅子用エレベータに乗るといったことで、どのような問題が起き、どのように解決されたのか（されなかったのか）を詳しく、そして楽しく説明して頂きました。

モノでもヒトでもペットでもない生命体としてのロボットが社会に溶け込んでいくためには、既存社会に存在するルールを変えていく必要があります。IoTでも、これまでパソコン、スマホの中にあったインターネット（サイバー

空間)が現実世界に入ってくることで、これまでのルール、常識を変えなければならないところが出てくるはずで  
す。今回紹介されたエピソードは、IoTでも形を変えて起きうる話でとても興味深いものでした。

## JNSA講演

### JNSAの考えるIoTセキュリティの課題と対策 武田一城氏 (JNSA IoTセキュリティWG)

この講演では、IoTセキュリティWGが約2年間議論してつくりあげた「コンシューマ向けIoT セキュリティガイド」  
の概説を武田氏が発表しました。

まずIoTの普及により生まれる「膨大なIoTデバイスの管理がしきれなくなる(野良IoT問題)」が、脆弱性を狙う  
標的型攻撃に対して大きな問題であることが示されました。そして、サイバー攻撃を生活のための手段としている  
攻撃者は、「経済性」と「効率」を重視してより脆弱な箇所を狙っており、そのターゲットとして無防備なコンシュー  
マ向けの機器が狙われる可能性が高いこと、そこでIoTセキュリティWGではコンシューマ機器開発者向けのセ  
キュリティガイドを作成したことが説明されました。

本発表は、「コンシューマ向けIoTセキュリティガイド」の2016年に発行された他のIoTセキュリティガイドライン  
に対する立ち位置がよく分かる発表であったと考えます。アンケートでもIoTのセキュリティ課題がよくわかる発表  
であったとの声がありました。





## イベント開催の報告

---

パネルディスカッション

IoT関連6団体によるディスカッション「IoTに関する指針やガイドをどう読むか?」

パネリスト

IPA (独立行政法人情報処理推進機構) 辻宏郷氏

JPCERT/CC (一般社団法人JPCERTコーディネーションセンター) 洞田慎一氏

JASA (一般社団法人組込みシステム技術協会) 竹田彰彦氏

CSAジャパン (一般社団法人日本クラウドセキュリティアライアンス) 二木真明氏

CCDS (一般社団法人重要生活機器連携セキュリティ協議会) 伊藤公祐氏

JNSA IoTセキュリティWG 杉浦昌氏

モデレータ JNSA IoTセキュリティWG 武田一城氏

2016年にIoTセキュリティガイドラインを発行した団体 (IPA、CSAジャパン、CCDS、JNSA IoTセキュリティWG) とIoT機器を開発する組込み分野の業界団体 (JASA)、セキュリティインシデント対応の中央組織 (JPCERT/CC) が一堂に会した、日本ではほぼはじめてのパネルディスカッションとなりました。パネルディスカッションでは、それぞれの団体の立場でIoTの未来とセキュリティについて熱い意見が飛び交いました。

パネルディスカッションの詳細を紹介することは難しいですが、「リソースの限られたIoT機器でどのようにセキュリティを担保するのか」、「システムを知り尽くした内部の人間が攻撃者にならないためにどうするか」、「情報システムの常識を知らない新しいIoT機器製造者、IoTシステム運用者にどうセキュリティ意識を伝えていくか」、「まだ議論が尽くされていないIoTのプライバシーの問題をどうするか」、「IoT機器がセキュリティ事故を引き起こしたときの責任の所在はユーザーになるのか、メーカーにあるのか」など、様々なIoTセキュリティの課題があり、その対策のためにやるべきことはまだまだたくさんあるということが明らかになりました。

しかし、パネリストからは、「IoTは自由で夢のある世界であり、セキュリティのためにIoTの未来にふたをすることはないようにしたい」、「IoTを人類の明るい未来の象徴とするために、ディベロッパーの発想にたがをはめないセキュリティのフレームワーク化が必要」、「IoTを知っていてもセキュリティのことをあまり知らない人は多い。彼らに会って話をしていくことでセキュリティによって阻害されないIoTの未来をつくりたい」といった、各団体の今後の活動に向けた強い意気込みが示されました。

今回のセミナーに参加し、パネルディスカッションを聞き、私も情報システム業界の一員として、IoTの明るい未来のために自社が得意とするソフトウェア開発分野で頑張っていきたいと思いました。そして、IoTセキュリティWGの一員として、今後とも微力を尽くしていきたいと思います。

# 「インターネット安全教室」のご案内

～パソコンや携帯電話で思わぬトラブルや犯罪にまきこまれないために～

誰でも手軽にインターネットに接続できるようになった今日、ウイルス感染、詐欺行為、プライバシー侵害など情報犯罪の被害にあう危険性がますます高くなってきています。いかに技術が進歩しても、ひとりひとりの意識の向上、モラルの徹底がなければ、これらの被害を防ぐことはできません。JNSAでは、経済産業省の委託事業として一般市民の情報セキュリティ知識向上のセミナー「インターネット安全教室」を、過去10年にわたって実施してきました。2014年度からは経済産業省補助金事業、独立行政法人情報処理推進機構（IPA）委託事業として、今年度も引き続き「インターネット安全教室」を全国で開催しました。

## 【開催概要】

- 【主催】 独立行政法人情報処理推進機構（IPA）
- 【共催】 全国各地のNPO・団体・自治体・学校など
- 【実施運営】 NPO日本ネットワークセキュリティ協会
- 【協力】 全国読売防犯協会
- 【後援】 サイバーセキュリティ戦略本部、警察庁、その他各開催地大学・新聞各社・県・県警 等

## インターネット安全教室とは？

家庭や学校からインターネットにアクセスする人々を対象に、どうすればインターネットを安全快適に使うことができるか、被害にあったときにはどうすればいいかなど、情報セキュリティに関する基礎知識を学習できるセミナー「インターネット安全教室」を開催しております。

会場では参加者全員に、ドラマやドキュメンタリーを通じて最新の情報セキュリティに対する脅威が学べる「映像知る情報セキュリティ」の最新版DVDを配布するとともに、情報セキュリティ対策のポイントをわかりやすく解説する教材「インターネット安全教室」、家庭向けリーフレット「みんなで守って安全・安心8か条」「親子で守って安全・安心10か条」なども配布し、情報セキュリティの向上にお役立っていただいております。



## こんな方はぜひご連絡下さい

- ・一般市民向けの情報セキュリティセミナーを実施したいがコンテンツがない
- ・教材を製作するにもコストも手間もかかるのでなかなかできない
- ・セミナー運営のノウハウがない
- ・しかし、情報セキュリティは大切。普及活動を行わないといけないと思っている

とお考えの団体さまがいらっしゃいましたら、ぜひ「インターネット安全教室」の共同開催をご検討下さい。

最新の開催状況については、「インターネット安全教室」ホームページをご確認ください。

<https://www.ipa.go.jp/security/keihatsu/net-anzen.html>

## 2016年度「インターネット安全教室」開催一覧

(2017.3.6現在)

	日程	開催地	共催団体	会場
1	2016年5月2日	東京	JNSA	東京都立武蔵丘高校
2	2016年5月19日	栃木	NPO栃木県シニアセンター	栃木市シルバー大学南校 大会議室
3	2016年5月20日	福岡	NPOスキルアップサービス	北九私立年長者研修大学校 周望学舎 第4研修室
4	2016年5月25日	東京	JNSA	都立両国高等学校
5	2016年5月28日	愛知	NPO東海インターネット協議会	名古屋市中小企業進行会館 吹上ホール
6	2016年5月28日	岐阜	JNSA	ハートフルスクエアG 大研修室 (岐阜市消費生活センター)
7	2016年6月10日	群馬	NPO法人おおたIT市民ネットワーク	田市役所セミナールーム
8	2016年6月11日	東京	JNSA	中野区立新山小学校
9	2016年6月23日	茨城	特定非営利活動法人日本コンピュータ振興協会	石岡市立吉生小学校
10	2016年6月23日	栃木	NPO栃木県シニアセンター	栃木市シルバー大学南校 大会議室
11	2016年6月27日	徳島	公益財団法人e-とくしま推進財団	吉野川市種野小学校
12	2016年7月1日	岐阜	インターネット安全教室レディースチーム	関市立武儀東小学校
13	2016年7月2日	岐阜	インターネット安全教室レディースチーム	垂井町立府中小学校
14	2016年7月3日	北海道	Anywhere【新規】	恵庭市民会館
15	2016年7月5日	長野	上田市マルチメディア情報センター	下小島公民館
16	2016年7月5日	岐阜	インターネット安全教室レディースチーム	垂井町立佐佐木小学校
17	2016年7月8日	北海道	NPO法人くるくるネット	NPO法人くるくるネット
18	2016年7月8日	群馬	NPO法人おおたIT市民ネットワーク	休泊行政センター
19	2016年7月14日	東京	JNSA	弥生区民活動センター
20	2016年7月14日	徳島	公益財団法人e-とくしま推進財団	吉野川市川田小学校
21	2016年7月15日	徳島	公益財団法人e-とくしま推進財団	石井町浦庄小学校
22	2016年7月19日	徳島	公益財団法人e-とくしま推進財団	阿波市市場小学校
23	2016年7月19日	徳島	公益財団法人e-とくしま推進財団	鳴門市板東小学校
24	2016年8月7日	秋田	NPO法人ノースウインド	ITチャオ!
25	2016年8月17日	神奈川	NPO情報セキュリティフォーラム	アミューあつぎ あつぎ市民交流プラザ
26	2016年8月21日	静岡	浜松市【新規】	浜松市地域情報センター
27	2016年9月16日	徳島	公益財団法人e-とくしま推進財団	石井町高原小学校
28	2016年9月25日	三重	PCシエル	長島総合自動車学校
29	2016年9月27日	大阪	NPO法人きんきうえび	富田林市立人権文化センター
30	2016年10月10日	秋田	NPO法人ノースウインド	ITチャオ!
31	2016年10月15日	群馬	NPO法人おおたIT市民ネットワーク	太田市世良田行政センター 2階 研修室
32	2016年10月15日	徳島	公益財団法人e-とくしま推進財団	海陽町立穴喰小学校
33	2016年10月17日	北海道	NPO法人くるくるネット	NPO法人くるくるネット
34	2016年10月23日	北海道	北海道情報セキュリティ勉強会	北海道富良野緑峰高校 1F 会議室
35	2016年11月2日	鹿児島	鹿児島県西之表市教育委員会【新規】	西之表市立榕城小学校
36	2016年11月5日	宮城	特定非営利活動法人地域情報モラルネットワーク	東北工業大学一番町ロビー2F
37	2016年11月6日	徳島	公益財団法人e-とくしま推進財団	阿南市立平島小学校
38	2016年11月6日	鹿児島	NPO鹿児島インファーマーメーション	鹿児島市中央公民館 3階中会議室
39	2016年11月8日	神奈川	NPO情報セキュリティフォーラム	おだわら市民交流センターUMECO
40	2016年11月8日	徳島	公益財団法人e-とくしま推進財団	三好市箸蔵小学校
41	2016年11月15日	神奈川	NPO情報セキュリティフォーラム	ヴェルクよこすか 6階ホール
42	2016年11月19日	北海道	旭川情報産業事業協同組合	旭川市立科学館 1階研修室
43	2016年11月19日	北海道	北海道情報セキュリティ勉強会	中標津町総合文化会館 1階コミュニティホール
44	2016年11月19日	長崎	長崎県立大学【新規】	長崎県立大学シーボルト校中央棟M103講義室

	日程	開催地	共催団体	会場
45	2016年11月20日	秋田	NPO法人ノースウインド	ITチャオ!
46	2016年11月21日	神奈川	NPO情報セキュリティフォーラム	川崎市麻生区役所4F 第3会議室
47	2016年11月29日	群馬	NPO法人おたIT市民ネットワーク	太田市立南小学校 多目的ホール
48	2016年12月2日	東京	JNSA	有明教育芸術短期大学
49	2016年12月3日	愛知	東海インターネット協議会	ウィンクあいち
50	2016年12月4日	秋田	NPO法人ノースウインド	ITチャオ!
51	2016年12月5日	東京	JNSA	有明教育芸術短期大学
52	2016年12月9日	栃木	NPO栃木県シニアセンター	栃木県シルバー大学南校
53	2016年12月10日	東京	JNSA	福生市民会館
54	2016年12月11日	茨城	茨城県メディア教育指導員連絡会【新規】	霞ヶ浦環境科学センター 多目的室
55	2016年12月14日	秋田	NPO法人ノースウインド	在宅障害者支援施設 とらいあぐる
56	2016年12月14日	千葉	JNSA	船橋市立市場小学校
57	2016年12月20日	滋賀	NPO滋賀県情報基盤協議会	滋賀県立瀬田高等学校・瀬田工業高等学校 (定時制)
58	2016年12月20日	愛媛	愛媛県IT推進協会	株式会社フェローシステム
59	2016年12月21日	和歌山	NPO情報セキュリティ研究所	和歌山県立南紀高等学校
60	2017年1月12日	三重	くわなPCネット	桑名市総合福祉会館
61	2017年1月12日	福岡	NPOスキルアップサービス	北九州市立年長者研修大学校穴生学舎2階 第2研修室
62	2017年1月14日	鹿児島	NPO鹿児島インファーマーセッション	和泊町立和泊中学校あかね文化ホール
63	2017年1月14日	鹿児島	NPO鹿児島インファーマーセッション	和泊町立和泊中学校あかね文化ホール
64	2017年1月17日	広島	福山市	山野公民館
65	2017年1月19日	滋賀	NPO滋賀県情報基盤協議会	大津市立雄琴小学校音楽室
66	2017年1月20日	奈良	特定非営利活動法人なら情報セキュリティ 総合研究所	桜井市立城島小学校 視聴覚室
67	2017年1月23日	北海道	NPO法人くるくるネット	NPO法人くるくるネット
68	2017年1月26日	広島	福山市	本郷公民館
69	2017年1月27日	広島	福山市	福山市立川口小学校
70	2017年2月3日	栃木	栃木市	栃木県シルバー大学南校
71	2017年2月4日	長崎	株式会社コミュニティメディア【新規】	対馬市交流センター
72	2017年2月8日	広島	福山市	金江公民館
73	2017年2月10日	広島	福山市	緑丘公民館
74	2017年2月14日	群馬	NPO法人 おたIT市民ネットワーク	太田市立駒形小学校
75	2017年2月14日	静岡	JNSA	知徳高等学校
76	2017年2月16日	広島	福山市	駅家西公民館
77	2017年2月16日	山口	NPO岩国パソコンの会	パストラルホール
78	2017年2月16日	鹿児島	NPO法人鹿児島インファーマーセッション	瀬戸内町立諸鈍小中学校
79	2017年2月16日	鹿児島	NPO法人鹿児島インファーマーセッション	瀬戸内町立諸鈍小中学校
80	2017年2月24日	神奈川	NPO情報セキュリティフォーラム	葉山町福祉文化会館 大会議室
81	2017年2月24日	広島	福山市	春日公民館
82	2017年2月26日	福岡	NPOスキルアップサービス	北九州市いきがい活動ステーション地下1F 活動広場
83	2017年3月4日	福岡	NPOスキルアップサービス	コラボラキャンパスネットワーク (北九州大学北方キャンパス)
84	2017年3月6日	福島	特定非営利活動法人日本コンピュータ振興 協会	渡利学習センター

# JNSA ANNOUNCE

## 主催セミナーのお知らせ

### ● PKI Day 2017

主催：NPO日本ネットワークセキュリティ協会  
PKI相互運用技術WG

日程：2017年4月19日(水)

会場：ヒューリックカンファレンス秋葉原

### ● JNSA2016年度活動報告会

主催：NPO日本ネットワークセキュリティ協会

日程：6月12日(月)

会場：秋葉原UDX

## 後援・協賛イベントのお知らせ

### 1. 自治体総合フェア 2017

主催：一般社団法人日本経営協会

日程：2017年5月24日(水)～26日(金)

会場：東京ビッグサイト 西展示棟・西3ホール

### 2. ワイヤレスジャパン2017

主催：株式会社リックテレコム

日本イージェイケイ株式会社

日程：2017年5月24日(水)～26日(金)

会場：東京ビッグサイト西1ホール

### 3. 第21回サイバー犯罪に関する白浜シンポジウム

主催：和歌山県、和歌山県警、白浜町、  
情報システムコントロール協会大阪支部  
(ISACA)、

和歌山大学、近畿大学生物理工学部、

NPO情報セキュリティ研究所

日程：2017年5月25日(木)～27日(土)

会場：和歌山県立情報交流センターBig・U

### 4. CSA Japan Summit 2017

主催：一般社団法人日本クラウドセキュリティアライ  
アンス

日程：2017年5月30日(火)

会場：東京大学・伊藤謝恩ホール

### 5. INTERPOL WORLD 2017

主催：INTERPOL World 2017

日程：2017年7月4日(火)～7日(金)

会場：Suntec Singapore Convention &  
Exhibition Centre

### 6. ガートナー セキュリティ & リスク・マネジメント サミット 2017

主催：ガートナー・ジャパン株式会社

日程：2017年7月12日(水)～14日(金)

会場：東京コンファレンスセンター・品川

### 7. Gartner Symposium/ITxpo 2017

主催：ガートナー・ジャパン株式会社

日程：2017年10月31日(月)～11月2日(水)

会場：グランドプリンスホテル新高輪 国際館パミール

## 1. 社会活動部会

部会長：丸山司郎 氏／株式会社ベネッセインフォシエル  
副部会長：唐沢勇輔 氏／ソースネクスト株式会社

日本社会のサイバーセキュリティへの適応を推進するためメディア等を通じた情報発信や社会貢献活動、政府機関や海外組織との連携など、JNSAの社会的活動を推進する。

具体的には、JNSAとしての情報発信の後押し、パブコメ対応や行政との意見交換会、ワークショップ、勉強会や記者懇談会などの普及啓発活動、委託事業などの社会貢献活動、講師派遣などの外部組織支援、国際・他団体連携などを進める。

また、東京オリンピック・パラリンピックに向けたセキュリティ推進活動として、JNSA会員企業メンバーを中心とする業界横断の「JNSA-CERC」を推進する。

### 【セキュリティ啓発WG】

(リーダー：山田英史 氏／株式会社ディアイティ)

IPA委託事業「インターネット安全教室」の内容検討や運営サポート、広報活動の検討などを行う。

### 【海外市場開拓WG】

(リーダー：一宮隆祐 氏／日本電気株式会社)

日本国内のセキュリティ事業者による海外市場開拓を加速すべく、All Japan体制でノウハウの共有とコスト・リスクの分散を図る。主な活動内容としては、3年程度を目安に下記を行っていく。

- 共通課題の抽出と解決指針策定
- 販路開拓／製品保守体制の整備／現地人材の採用／事業拠点整備に関わる活動
- 資金の獲得、現地の規制/届出など法務契約面の対応など
- 共同プロモーション活動の展開
- 海外展示会への出展、メディアへの露出
- 経済産業省など主管庁とのタイアップ
- 先行して海外市場に進出している企業の事例調査

#### <予定成果物>

- 海外進出企業の事例調査
- 海外進出マニュアル

### 【CISO支援WG】

(リーダー：河野省二 氏／株式会社ディアイティ)

CISOに求められる業務、そしてCISOがセキュリティ活動を指揮するために必要な情報とはどのようなものかを設定し、活動しやすい環境づくりを支援するためのアウトプットを行なう。また、必要な情報については、内部から得られるもの、外部から得るべきものなどを設定し、情報交換の場なども提供する。

NPO日本セキュリティ監査協会(JASA)、日本ISMSユーザグループ、日本CISO協会と連携して活動する。

#### <予定成果物>

- CISOガイドブック
- CISOのための情報交換会(の準備会)設置

### 【JNSA CERC】

(リーダー：高橋正和 氏／株式会社日本マイクロソフト)

会員間でのインシデント情報共有のための仕組みを充実させるとともに、流通するコンテンツの拡充を図る。

## 2. 調査研究部会

部会長：前田典彦 氏／株式会社カスペルスキー

情報セキュリティにおける各種の調査および研究活動を行う。セキュリティ被害、情報セキュリティ市場などの統計分析事業、および、重要度や緊急度の高いテーマに関する脅威分析、対策研究を推進する。適切な時期、形式を用いて適宜情報公開を行い、調査研究における成果を広く社会に還元する。新規性や緊急性の高いテーマの検討が必要となる場合においては、勉強会、BoFなどを随時行うなどして、柔軟かつ迅速な対応を行う。

### 【セキュリティ被害調査WG】

(リーダー：大谷尚通 氏／株式会社NTTデータ)

個人情報漏えいインシデントの調査報告の活動の移管先を決定し、移管に向けた調整を行う。2015年データを用いて、移管先へレクチャー等を行う。

セキュリティ対策の投資対効果を定量的に計測するためのモデル検討、モデルを用いた机上実験、アンケートによる意見収集などを行う。

#### <予定成果物>

- 2015年個人情報漏えいインシデント調査報告書

#### 【セキュリティ市場調査WG】

(リーダー:木城武康 氏/株式会社日立システムズ)

国内で情報セキュリティに関するツール、サービス等の提供を事業として行っている事業者を対象として、推定市場規模データを算出し報告書として公開する。

#### <予定成果物>

- 2016年度情報セキュリティ市場調査報告書

#### 【組織で働く人間が引き起こす不正・事故対応WG】

(リーダー:甘利康文 氏/セコム株式会社)

以下の3方向から「組織で働く人間が引き起こす不正・事故」に対する考察を深め、ソリューションの提言、提案を行うことを目的とする。

- (1) 人の意識や組織文化、
- (2) 組織の行動が影響を受ける社会文化や規範
- (3) 不正を防ぐシステム

#### <予定成果物>

- JNSA会員企業の「自社の従業員満足度向上に向けた施策」についての事例紹介。

#### 【IoTセキュリティWG】

(リーダー:松岡正人 氏/株式会社カスペルスキー)

IoTに関連する製品や技術などの開発者、他のIoT関連の団体や組織との交流や情報交換を通して、会員の知識や理解を深める。またIoT製品の評価レポートなどの作成など。

#### <予定成果物>

- コンシューマ向けIoT開発者向けセキュリティガイド
- IoT製品の評価レポート

#### 【脅威を持続的に研究するWG】

(リーダー:大森雅司 氏/株式会社日立システムズ)

- (1) 変化する顧客ニーズの分析整理とビジネスアプローチの検討
- (2) サイバー空間問題・安保外交政策・国内外市場動向の追跡調査
- (3) 高度標的型攻撃設計対策ガイドに関する技術策の検討
- (4) 重要インフラ・制御系・社会インフラ等分野に係る問題整理

#### <予定成果物>

上記活動を通じて得られた知見や問題点等をホワイトペーパーに纏めて、公開予定。

#### 【マイナンバー対応情報セキュリティ検討WG】

(リーダー:萩原健太 氏/トレンドマイクロ株式会社)

最新のマイナンバー情報を入手し、現在ある成果物の整合性確認や新たなツール等の追加などを行う。

### 3. 標準化部会

部会長:中尾康二 氏/KDDI株式会社

副部会長:松本泰 氏/セコム株式会社

昨年度に引き続き、業種・業界・分野等の標準化・ガイドライン化などを推進する。特に、JNSA目線のセキュリティベースラインの提供、情報セキュリティ対策ガイドラインの策定などを進める。また、国際標準/国際連携との親和性の高い案件については、国際標準への提案やコメントや日韓連携案件も視野に入れて議論を進める。

#### 【アイデンティティ管理WG】

(リーダー:宮川晃一 氏/日本電気株式会社)

アイデンティティ管理の必要性の啓発および導入指針の提示などによる普及促進、関連他団体との連携により市場活性化を目的とする。

#### <予定成果物>

- ID管理チェックリスト

#### 【国際化活動バックアップWG】

(リーダー:中尾康二 氏/KDDI株式会社)

国際標準化活動の情報共有を継続的に実施する。また、韓国KISIAとの共同フォーラムの開催を行い、韓国セキュリティベンダーグループとの連携を強化する。

#### 【電子署名WG】

(リーダー:宮崎一哉 氏/

三菱電機株式会社 情報技術総合研究所)

欧州電気通信標準化機構/電子署名基盤技術委員会(ETSI/TC ESI)会議などの国際標準化会議への参加を通じて、署名関連システムの実証プロジェクトなどを実施。国の委託事業「PDF長期署名プロファイルに関する国際標準化活動」も行うとともに、様々な関連

技術などに関する勉強会も開催する。

#### <予定成果物>

- PDF署名(PAdES)プロファイル標準仕様最終ドラフト(DIS又はFDIS)
- 署名検証プロセスに関する標準仕様ドラフト
- 経済産業省委託事業向け報告書

#### 【PKI相互運用技術WG】

(リーダー: 松本泰 氏/セコム株式会社)

マイナンバー&IoT時代のPKIの情報共有を行うことを目的として活動。「KI Day 2017」イベントなどの企画検討も行う。

#### 【セキュアプログラミングWG】

(リーダー: 塩田英二 氏/TIS株式会社)

セキュアなシステムの構築に必要な標準に関する検討を行う。

## 4. 教育部会

部会長: 平山敏弘 氏/日本アイ・ビー・エム株式会社

社会のニーズや時代の変化に適合したセキュリティ人材育成のため、必要とされる知識・技能等の検討を行い、実際に大学や専門学校等で評価実験を行う。

また、情報セキュリティ教育のコンテンツとして、情報セキュリティ教育のシラバスや講義資料および情報セキュリティスキル知識分野(SecBok)のさらなる改善を目指す。

さらに、講師データベースへの登録講師や講師予備軍の若手による講義・勉強会の開催等、教える場の提供を支援することにより、JNSA教育部会メンバーのスキル向上を目指す。

加えてセキュリティコンテストとは異なる新たな実践教育ツールの開発や検証に対しても検討を行う。

#### 【ゲーム教育WG (旧講師スキルWG)】

(リーダー: 長谷川長一 氏/株式会社ラック)

情報セキュリティ教育の新しい手法(PBL、ケーススタディ、カード/ボードゲーム等を使った教育)の研究や実証実験を行っていく。活動は、U40部会と連携し、行っていく。

#### <予定成果物>

- 情報セキュリティ実践教育ツール (PBL、ケーススタディ、カード/ボードゲーム等)

#### 【情報セキュリティ教育実証WG】

(リーダー: 平山敏弘 氏/日本アイ・ビー・エム株式会社)

情報セキュリティを教えることが出来る高度なスキルをもった人材を育成するために、実践での大学などでの講義を通じて、実践力とハイレベルスキルの習得を目的とする。

#### <予定成果物>

- 情報セキュリティ講義コンテンツ

#### 【セキユ女WG】

(リーダー: 北澤麻理子 氏/

ドコモ・システムズ株式会社)

- 女性セキュリティエキスパートの交流場所を提供する(会社の枠を超えた連携を可能にする)
- セキュリティに関する専門スキルを持ちたい女性を応援する

## 5. 会員交流部会

部会長: 萩原健太 氏/トレンドマイクロ株式会社

情報セキュリティ業界の健全な発展のために会員向けサービスを充実させ、業界の発展に貢献する。

具体的には、勉強会や製品紹介サイトの運営、各種ガイドラインと製品との関連付け、情報交換・情報発信などを行う。

#### 【セキュリティ理解度チェックWG】

(リーダー: 萩原健太 氏/トレンドマイクロ株式会社)

情報セキュリティ理解度チェックサイトを「職員向けの教育の場を継続的に提供する」ことを目的とし、定期的な問題追加と見直しやプレミアムサイトの新たなセリングモデルの検討を行う。

#### 【JNSAソリューションガイド活用WG】

(リーダー: 秋山貴彦 氏/株式会社アズジェント)

ソリューションカイドの更なる活用を踏まえ、年間の活動を通じて会員企業自身のPRとその企業が有しているソリューションのPRを図る。2017年2月にはIPA『中小企業の情報セキュリティ対策ガイドライン』に準



扱った製品・サービスの特集検索ページを公開した。

#### 【経営課題検討WG】

(リーダー:菅野泰彦 氏)

アルプスシステムインテグレーション株式会社)

中小企業における経営課題を調査・検討し、JNSA会員の事業を応援する。

#### <予定成果物>

- ロジックツリーの作成
- ロジックツリーで作りこむ解決策から得られる副産物的な成果物、派生する調査検討内容や勉強会企画など

### 6. 西日本支部

支部長:嶋倉文裕 氏

富士通関西中部ネットテック株式会社

西日本に拠点を置くメンバー企業が中心となり、提携団体との協働の下、西日本のネットワーク社会におけるセキュリティレベルの維持・向上に資すると共に、産官共同して、IT利活用の実現・推進のため、西日本に集積する中小企業がリスクの変化に応じた機動的な対応を行うことができる機会づくりを支援する。

#### 【経営者向け情報セキュリティ対策実践手引きWG】

(リーダー:河野愛 氏)

株式会社インターネットイニシアティブ)

経営者に情報セキュリティ対策の必要性を訴求し、対策に投資をしてもらうため、必要性の見える化施策を検討する。

#### <予定成果物>

- 経営者向け情報セキュリティ対策実践手引き(仮称)

#### 【企画・運営WG】

(リーダー:小柴宏記 氏)

株式会社ケーケーシー情報システム)

JNSA 会員および西日本地域のセキュリティレベルの向上を目指し、一般向けの公開セミナーに加えて、昨年に引き続き近畿経済産業局との連携を強化し、組込系の繋がるモノづくり・セキュリティセミナーを経営者向けに開催する。また地域のセキュリティレベル向上のため、関西で活動する団体の合同セミナーを年2~3

回実施すると共に、本部との合同セミナーも継続して積極的に開催していく。

#### 【技術研究WG】

(リーダー:久保智夫 氏/株式会社サーバーワークス)

内部勉強会やJASA等との共同勉強会等も含めたものとして、研究(勉強)テーマを1回完結式ではなく継続して研鑽する。

### 7. U40部会

部会長:赤松孝彬 氏/株式会社ディアイティ

若年層を対象メンバーとして、JNSAの若返り、若年層の活動活発化、幅広い人脈形成を目的として活動を行う。

#### 【for Rookies WG(旧JNSAラボネットWG)】

(リーダー:桑原和也 氏/デジタルアーツ株式会社)

「いまさら聞けない相談事」というキーワードをもとに企画検討したテーマについて、ワークショップ(ハンズオン等)を開催。特に興味深いテーマについては、ルーキー(セキュリティを主業務にするようになってから3年以下)向けのワークショップをU40メンバーにて開催する。

#### 【勉強会企画検討WG】

(リーダー:越野由華 氏/株式会社カスペルスキー)

U40部会員の知識・スキル向上を目指し、勉強会を企画・開催する。勉強会は講師からの講義だけにとどまらず、グループディスカッションやライトニングトーク、ハンズオンを取り入れ、意見交換を活発化する。部会員以外のJNSA会員からも勉強会参加者を募り、部会員同士・JNSA会員・講師との人脈形成を行う。

### 8. 情報セキュリティ教育事業者連絡会 (ISEPA)

代表:持田 啓司 氏/株式会社ラック

今年度は、新たに会員会議を開催し、教育部会との連携も含めた今後の活動内容、会員条件の検討を行い、活動を継続する。

## 9. 日本セキュリティオペレーション事業者協議会 (ISOG-J)

代表: 武智洋 氏 / 日本電気株式会社

セキュリティ診断士に関する検討として、診断士 (Webアプリケーション) に必要な知識などの整理を継続する。また、一般向けセミナー、内部セミナーおよび勉強会等を適宜実施する。

### <予定成果物>

- Webアプリケーション シラバス
- プラットフォーム診断のスキルマップ シラバス
- Internet Week 2016での公開向け資料を予定

### 【セキュリティオペレーションガイドラインWG】

(リーダー: 上野宣 氏 / 株式会社トライコーダ)

診断士資格の設立に向けて以下を行なう。

- 診断士(Webアプリケーション)資格の要項や必要な知識などの整理
- 資格試験としての体制についての検討
- 診断士(プラットフォーム)スキルマップの整備

### 【セキュリティオペレーション技術WG】

(リーダー: 川口洋 氏 / 株式会社ラック)

最新の技術動向を調査し、最適なセキュリティオペレーション技術を探求し、技術者の交流を図る。セキュリティ技術の情報交換及びセミナーを各社持ち回りで実施。

### 【セキュリティオペレーション認知向上・普及啓発WG】

(リーダー: 井上博文 氏 / 日本アイ・ビー・エム株式会社)

一般向けセミナーの開催を検討する。

### 【セキュリティオペレーション連携WG】

(リーダー: 武井滋紀 氏 / NTTソフトウェア株式会社)

セキュリティの運用について各社共通の課題の議論、検討を行う。

## 10. 産学情報セキュリティ人材育成検討会

座長: 江崎浩 氏 / 東京大学大学院教授

情報セキュリティ業界での就労体験の機会提供を目的にJNSAインターンシップを実施する他、学生と企業

間の意見交換・交流のための交流会を開催し、企業と学生の橋渡しを行う。

## 11. SECCON実行委員会

実行委員長: 竹迫良範 氏 /

株式会社リクルートマーケティングパートナーズ

学生向け大会や全世界対象のオンライン大会などを行う日本最大のハッキングコンテスト「SECCON」を運営。SECCON本体の予選や決勝大会の他、CTF初心者向け勉強会「CTF for ビギナーズ」や女性限定のワークショップ「CTF for Girls」の開催にも注力する。

会 長 田中 英彦 情報セキュリティ大学院大学 学長  
副会長 高橋 正和 日本マイクロソフト株式会社  
副会長 中尾 康二 KDDI株式会社

#### 理 事 (50音順)

荒川 賢一 エヌ・ティ・ティ・アドバンステクノロジー株式会社  
遠藤 直樹 東芝ソリューション株式会社  
大城 卓 新日鉄住金ソリューションズ株式会社  
小椋 則樹 ユニアデックス株式会社  
河内 清人 三菱電機株式会社情報技術総合研究所  
後藤 和彦 株式会社大塚商会  
小屋 晋吾 トレンドマイクロ株式会社  
佐藤 憲一 株式会社OSK  
下村 正洋 株式会社ディアアイティ  
田井 祥雅 マカフィー株式会社  
土屋 茂樹 株式会社エヌ・ティ・ティ・データ  
西本 逸郎 株式会社ラック  
藤伊 芳樹 大日本印刷株式会社  
藤川 春久 セコムトラストシステムズ株式会社  
水村 明博 EMCジャパン株式会社  
三膳 孝通 株式会社インターネットイニシアティブ

#### 幹 事 (50音順)

安達 智雄 日本電気株式会社  
伊藤 良孝 株式会社インターネットイニシアティブ  
上原 政則 株式会社インフォセック  
内田 憲宏 キヤノンITソリューションズ株式会社  
北澤 麻理子 ドコモ・システムズ株式会社  
木村 滋 シスコシステムズ合同会社  
工藤 雄大 大日本印刷株式会社  
後藤 忍 セコムトラストシステムズ株式会社  
駒瀬 彰彦 株式会社アズジェント  
小屋 晋吾 トレンドマイクロ株式会社  
嶋倉 文裕 富士通関西中部ネットテック株式会社  
下村 正洋 株式会社ディアアイティ  
鈴木 英樹 株式会社OSK  
高木 経夫 ユニアデックス株式会社  
高橋 正和 日本マイクロソフト株式会社  
辻 秀典 ネットワンシステムズ株式会社  
中尾 康二 KDDI株式会社  
中間 俊英 株式会社ラック

能勢 健一朗 東芝ソリューション株式会社  
平山 敏弘 日本アイ・ピー・エム株式会社  
蛭間 久季 株式会社アークン  
二木 真明 アルテア・セキュリティ・コンサルティング  
前田 典彦 株式会社カスペルスキー  
本川 祐治 株式会社日立システムズ  
森 直彦 エヌ・ティ・ティ・アドバンステクノロジー株式会社  
油井 秀人 富士通エフ・アイ・ピー株式会社  
与儀 大輔 NRIセキュアテクノロジーズ株式会社

#### 監 事

土井 充 公認会計士 土井充事務所

#### 顧 問

井上 陽一  
今井 秀樹 東京大学 名誉教授  
佐々木良一 東京電機大学 教授  
武藤 佳恭 慶應義塾大学 教授  
前川 徹 サイバー大学 教授  
森山 裕紀子 早稲田リーガルコモンズ法律事務所 弁護士  
安田 浩 東京電機大学 教授  
大和 敏彦 株式会社アイティアイ  
吉田 真 東京大学 名誉教授

#### 事務局長

下村 正洋 株式会社ディアアイティ

【あ】

(株)アーク情報システム  
 (株)アークン  
 アイネット・システムズ(株)  
 (株)アイピーキューブ  
 アイマトリックス(株)  
 アイレット(株)  
 アカマイ・テクノロジーソリューションズ(株)  
 アクセンチュア(株)  
 アクモス(株)  
 (株)アズジェント  
 アドソル日進(株)  
 (株)アピリッツ  
 (株)網屋  
 アライドテレシス(株)  
 アルテア・セキュリティ・コンサルティング  
 (株)アルテミス  
 アルプスシステムインテグレーション(株)  
 EMCジャパン(株)  
 (株)イーセクター  
 イーロックジャパン(株)  
 イオンアイピス(株)  
 伊藤忠テクノソリューションズ(株)  
 学校法人 岩崎学園  
 (株)インターネットイニシアティブ  
 インタセクト・コミュニケーションズ(株)  
 (株)インテック  
 (株)インテリジェントウェイブ  
 インフォサイエンス(株)  
 (株)インフォセック  
 ウェブルート(株)  
 ウォッチガード・テクノロジー・ジャパン(株)  
 (株)AIR  
 SCSK(株)  
 (株)エス・シー・ラボ  
 SGシステム(株)  
 NRIセキュアテクノロジーズ(株)  
 NECソリューションイノベータ(株)  
 NECネクサソリューションズ(株)  
 NHNテコラス(株) **New**  
 エヌ・ティ・ティ・アドバンステクノロジー(株)  
 エヌ・ティ・ティ・コミュニケーションズ(株)  
 エヌ・ティ・ティ・コムウェア(株)  
 NTTコムソリューションズ(株)  
 NTTセキュリティ・ジャパン(株) **New**  
 エヌ・ティ・ティ・ソフトウェア(株)  
 (株)エヌ・ティ・ティ・データ  
 (株)エヌ・ティ・ティ・データCCS  
 エヌ・ティ・ティ・データ先端技術(株)  
 エヌ・ティ・ティ・レゾナント(株)  
 (株)FFRI  
 (株)エルテス

(株)OSK  
 (株)大塚商会  
 岡三情報システム **New**

【か】

(株)ガイアックス  
 (株)カスペルスキー  
 キヤノンITソリューションズ(株)  
 (株)クエスト  
 グローバルセキュリティエキスパート(株)  
 クロストラスト(株)  
 (株)ケーケーシー情報システム  
 KDDI(株)  
 KPMGコンサルティング(株)  
 (株)神戸デジタル・ラボ  
 (株)コスモス・コーポレイション  
 (株)コンシスト

【さ】

サイエンスパーク(株)  
 (株)サイバーエージェント  
 サイバーソリューションズ(株)  
 (株)サイバード  
 サイボウズ(株)  
 (株)サーバーワークス  
 G・O・G(株)  
 (株)JMCリスクソリューションズ  
 ジェイズ・コミュニケーション(株)  
 JPCERTコーディネーションセンター  
 (株)シグマクシス  
 シスコシステムズ合同会社  
 システム・エンジニアリング・ハウス(株)  
 情報セキュリティ(株) **New**  
 (株)信興テクノミスト  
 新日鉄住金ソリューションズ(株)  
 新日本有限責任監査法人  
 セイコーソリューションズ(株)  
 (株)セキュアソフト  
 セキュリティ・エデュケーション・アライアンス・ジャパン  
 SecureWorks Japan(株)  
 セコム(株)  
 セコムトラストシステムズ(株)  
 総合警備保障(株)  
 ソースネクスト(株)  
 ソニー(株)  
 ソフォス(株)  
 ソフトバンク(株)  
 ソフトバンク・テクノロジー(株)  
 (株)ソリトンシステムズ  
 SOMPOリスクアマネジメント(株)

## 【た】

大興電子通信(株)  
大日本印刷(株)  
(株)宝情報 **New**  
タレスジャパン(株)  
TIS(株)  
TISソリューションリンク(株)  
(株)ディアイティ  
デジタルアーツ(株)  
デロイト トーマツ リスクサービス(株)  
(株)電通国際情報サービス  
東芝ソリューション(株)  
有限責任監査法人トーマツ  
ドコモ・システムズ(株)  
トレンドマイクロ(株)

## 【な】

(株)ナノオプト・メディア **New**  
日商エレクトロニクス(株)  
日本RA(株)  
日本アイ・ビー・エム(株)  
日本アイ・ビー・エム システムズエンジニアリング(株)  
日本オラクル(株)  
日本企画(株)  
日本セーフネット(株)  
日本電気(株)  
日本電子計算(株)  
日本電信電話(株)  
日本ビジネスシステムズ(株)  
日本ブルーポイント(株)  
日本プロセス(株)  
日本マイクロソフト(株)  
日本ユニシス(株)  
(株)ネクストジェン  
ネットワンシステムズ(株)

## 【は】

パーソナルテクノロジースタッフ(株)  
パナソニック(株)  
パロアルトネットワークス(株)  
(株)日立システムズ  
(株)日立ソリューションズ  
飛天ジャパン(株)  
(株)PFU  
華為技術日本(株)  
(株)ファインデックス  
(株)VSN  
フォーティーネットジャパン(株) **New**  
富士ゼロックス(株)  
富士ゼロックス情報システム(株)  
富士通(株)  
富士通エフ・アイ・ピー(株)  
富士通関西中部ネットテック(株)  
富士通クライアントコンピューティング(株) **New**  
(株)富士通ソーシャルサイエンスラボラトリ  
(株)ブロードバンドセキュリティ **New**

(株)ブロードバンドタワー  
(株)プロット **New**  
(株)ベネッセインフォシエル  
北陸通信ネットワーク(株)

## 【ま】

マカフィー(株)  
みずほ情報総研(株)  
三井物産セキュアディレクション(株)  
三菱スペース・ソフトウエア(株)  
(株)三菱総合研究所  
三菱総研DCS(株)  
三菱電機(株)情報技術総合研究所  
三菱電機インフォメーションシステムズ(株)  
三菱電機インフォメーションネットワーク(株)  
(株)mediba  
(株)メトロ

## 【や】

(株)ユービーセキュア  
ユニアデックス(株)

## 【ら】

(株)ラック  
(有)ラング・エッジ  
(株)リクルートテクノロジーズ  
リコージャパン(株)  
(株)リンクブレイン  
(有)ロボック

## 【わ】

(株)ワイ・イー・シー  
(株)ワイズ

## 【特別会員】

(ISC)2 Japan  
一般社団法人 コンピュータソフトウェア協会  
ジャパン データ ストレージ フォーラム  
一般社団法人 重要生活機器連携セキュリティ協議会  
公益財団法人 ソフトピアジャパン  
データベース・セキュリティ・コンソーシアム  
特定非営利活動法人 デジタル・フォレンジック研究会  
電子商取引安全技術研究組合  
東京情報大学  
長崎県立大学情報システム学部情報セキュリティ学科  
東京大学大学院 工学系研究科  
一般社団法人 IIOT  
一般社団法人 日本インターネットプロバイダー協会  
一般社団法人 日本クラウドセキュリティアライアンス  
一般社団法人 日本コンピュータシステム販売店協会  
特定非営利活動法人 日本システム監査人協会  
特定非営利活動法人 日本情報技術取引所 **New**  
一般社団法人 日本スマートフォンセキュリティ協会  
特定非営利活動法人 日本セキュリティ監査協会  
一般財団法人 日本データ通信協会 タイムビジネス協議会

JNSA 年間活動 (2016 年度)

4月	4月22日	PKI Day 2016「マイナンバー時代のPKI」	
	4月23日	産学情報セキュリティ人材育成交流会～インターンシップに向けて	
	4月28日	第1回幹事会	
5月	5月15日	CTF for ビギナーズ 2016 長野	
	5月16日	2016 年度理事会	
6月	6月17日	JNSA 2015 年度活動報告会 / 2016 年度総会 (ベルサール神田)	
	6月24日	第5回 CTF for GIRLS	
	6月26日	CTF for ビギナーズ 2016 香川	
7月	7月16日	CTF for ビギナーズ 2016 博多	
	7月17日	SECCON 2016 九州大会	
	7月20日～22日	RSA カンファレンス (シンガポール) 出典	
	7月29日	第2回幹事会	
	7月28日	第6回日韓情報セキュリティシンポジウム (秋葉原UDX)	
8月	8月24日	SECCON 2016 横浜大会	
9月	9月10日	CTF for ビギナーズ 2016 弘前	
	9月16日	第3回幹事会	
10月	10月2日	SECCON 2016 大阪大会	
	10月15日	攻殻 CTF	
	10月22日	CTF for ビギナーズ 2016 東京	
	10月26日	IoT セキュリティセミナー	
11月	11月12日	SECCON 2016 大会 (サイバー甲子園)	
	11月18日	第4回幹事会 京都	
	11月21日	ISEPA 主催セミナー	
	11月26日	CTF for ビギナーズ 2016 金沢	
12月	12月3日	産学情報セキュリティ人材交流会～インターンシップに向けて	
	12月10日～11日	SECCON 2016 オンライン予選 (日本語・英語)	
	12月16日	第6回 CTF for GIRLS	
	12月22日	SecurityDay2016	
1月	1月23日	Network Security Forum 2017 (NSF 2017)/ 賀詞交換会	
	1月25日	第5回幹事会	
	1月28日	SECCON 2016 決勝大会 (intercollege)	
	1月29日	SECCON 2016 決勝大会 (international)	
2月	2月17日	JNSA 拡大幹事会 (大洗ホテル)	
3月	3月1日	NSF 2017 in Kansai	
	3月17日	第6回幹事会	

★ JNSA 年間スケジュールは、<http://www.jnsa.org/aboutus/schedule.html> に掲載しています。

★ JNSA 部会、WG の会合議事録は会員情報のページ <http://www.jnsa.org/member/index.html> に掲載しています。(JNSA 会員限定です)

ユニアデックス株式会社 田内 雄二



JNSA会員の皆様、はじめまして。ユニアデックス株式会社の田内 雄二（たうち ゆうじ）と申します。この度は日本ユニシス株式会社の尾花さんよりご紹介にあずかり、自己紹介をさせていただきます。

私が社会に出て最初に勤めたのは、とある警備会社でした。そこで警備員として従事しビルの巡回や監視を行っていました。4年ほど経った頃、当時何の技術も持たない自分の将来に不安を覚え、ITの世界に入ろうと思い、大阪でシステム開発の小さな会社に転職しました。それからは10年以上、システム開発ばかりを続けましたが、セキュリティに関しては無知に等しく、3年前にユニアデックスに入ってこの部署で働くまでこんな仕事があることも知りませんでした。しかし今思えば結局セキュリティの世界に戻ってきていて、これも運命なのかもしれません。

現在、マネージドサービスセンターに所属しており、基盤システムの構築と運用、お客様のセキュリティ監視を担当しています。上司とはよく今のSOCをどうやって発展させていくか語り合うことがあり、また若輩でありながら新しい商材の企画などにも参加させてくれるので、とても恵まれた環境に居ると思っています。

2年前に社内のプライベートSOC運用の立ち上げに参画し、まだSOC立ち上げの知識が無い中どうすればいいかわからない頃、日本ユニシスの尾花さんよりJNSAのISOG-Jを紹介して頂き、それからJNSAに関わることになりました。ISOG-Jに参加されている方々の話は非常に勉強になりますが、ついていくのがやっとで、まだまだ精進が足りないと痛感しています。皆さんのレベルが高いので私が提供できる情報は少ないのですが、これからもっと経験を積んで同じレベルで話が出来ようになりたいと思っています。

ちなみに私は大阪に家があり、家族も大阪に住んでいます。ちょくちょく帰っているのですが、子供がまだ幼稚園にも入っていない頃は、「たまに泊まりに来るおじさん」と認識していたようです。今ではちゃんと「お父ちゃん」と呼んでくれますが、でもやっぱり子供は可愛いですね。将来は大阪に戻って子供を愛でながらセキュリティの仕事に携わりたいと考えていますが、そのためにも今ここで覚えなれないといけないことはたくさんあります。

JNSAの皆さん、こんな若輩者ですがこれからもご指導ご鞭撻の程よろしく願いいたします。

会員紹介（当コーナーでは、JNSAで活躍されている会員の方に、リレー方式で自己紹介をしていただきます。）

伊藤忠テクノソリューションズ株式会社 富士榮 尚寛



JNSA会員の皆様、はじめまして。アイデンティティ管理WGで活動させていただいております、伊藤忠テクノソリューションズ株式会社の富士榮 尚寛（ふじえ なおひろ）と申します。この度は日本アイ・ビー・エム株式会社の板倉様よりご紹介いただきました。

まず、簡単に私のこれまでの経歴とセキュリティとの係りについてお話しさせていただきます。私は幼少時代を中近東で過ごしてきたということもあり、学生時代は外国語（英語、アラビア語）を専攻、エンジニアとは程遠い世界で生活をしてきました。しかしその後、縁がありプログラマとして分散トランザクション管理パッケージの通信モジュールの開発を担当、それをきっかけに、ネットワークやインフラ、アプリケーション基盤に係る業務を幅広く経験させていただく機会を得ることが出来ました。その中でディレクトリサービスの設計～構築を担当したことがセキュリティ、そしてアイデンティティ管理への最初のきっかけとなりました。

当時はアプリケーションが個別にIDを管理し、認証や認可を行うのが当たり前の時代でしたので、異動や退職などと連動してIDや権限のコントロールを行うID管理システムには純粋に面白さと将来性を感じた記憶があります。

そんな中、2000年代中盤頃の内部統制ブームにのりJNSAでもアイデンティティ管理WGが立ち上がったことを伺い、知見を広げることを目的に参加させていただき、クラウドやグローバル化など企業が直面している環境の変化に対してID基盤はどうあるべきか?という議論を通じ、「クラウド環境におけるアイデンティティ管理ガイドライン」の執筆に関与できたことは貴重な経験となっています。

現在は関西をメイン拠点として認証/ID管理の専任部隊としてコンサルティング～導入に係る業務を担当させていただいておりますが、やはりビジネスのグローバル化や働き方の多様化などによりクラウドの利用が加速しており、アイデンティティ管理の領域においてもクラウドとの連携が最大の検討ポイントになってきています。また、近年はID基盤自体をクラウドベースで提供するIDaaS (Identity as a Service) の活用にも注目が集まり、実際に導入も進んできており、今後の主流になっていくと予想されています。

当WGにおいても継続的にクラウドを念頭に置いたアイデンティティ管理のあるべき姿や導入時の留意点などの情報を発信していきたいと考えておりますので、皆様今後ともよろしくお願いたします。



SECCONは、セキュリティコンテストの略で、セキュリティ・キャンプ講師経験者をはじめとする有志により設立され、日本のセキュリティ技術の底上げと人材の発掘・育成を目的として、2012年からその活動を始めました。

## 2016年のSECCONの活動

5年目を迎えたSECCONは、学生向け大会や全世界対象のオンライン大会、初心者向けCTF大会、女性限定ワークショップなどCTFの枠にとどまらない多様なコンテストを展開しました。

- SECCON 2016 九州大会 (IoT CTF)
- SECCON 2016 × CEDEC CHALLENGE ゲームクラッキング&チートチャレンジ
- SECCON 2016 大阪大会 (アツマレバイナリアン)
- SECCON 2016 京都大会 (サイバー甲子園 (U18大会))
- SECCON 2016 オンライン予選
- CTF for ビギナーズ
- CTF for Girlsワークショップ
- CTF for GIRLS × 攻殻機動隊 REALIZE PROJECT 「攻殻CTF」



CTF for ビギナーズFINAL@東京の様子

## SECCON2016決勝大会



決勝大会表彰式

2017年1月に行われたSECCON決勝大会では、世界99ヶ国、累計4,956名の中から各予選や連携大会を勝ち抜いた24チームが 出場し、東京で世界レベルのハッキング対決が繰り広げられました。また、同会場で様々なカンファレンスやワークショップも開催され、400人規模の「CTF for ビギナーズ2016FINAL」も同時開催されました。決勝大会で優勝したチームには経済産業大臣賞が、学生の最優秀チームには文部科学大臣賞が授与されました。

## 2017年度のSECCONの展開

2017年のSECCONも、さまざまな形のコンテストにチャレンジしていきたいと考えています。各地で開催する大会は、オフラインならでの大会として企画し、セキュリティに関わる技術や知識の啓発活動として学生主体で運営するワークショップ「CTF for ビギナーズ」や、女性スタッフによる女性限定ワークショップ「CTF for GIRLS」も引き続き開催していきます。そして、2016年のコラボレーションもその多くを継続的に開催していこうと考えています。今後もSECCONの活動にご期待ください。



決勝大会の様子

## 2017年度SECCONスポンサー募集中!

SECCON では 2017 年度のスポンサーを募集しています。SECCON が取り組むセキュリティ人材の発掘や育成、その活動にご共感いただける場合はぜひスポンサーとしてご参画ください。

SECCON 運営事務局 E-mail: info2016@seccon.jp Tel: 03-6431-7807 (株式会社ナノオプト・メディア内)

### SECCON メールマガジン登録

CTFに興味を持っている人・SECCON参加者や参加検討中の方々を対象にメールマガジンを発行しています。メールマガジン登録を希望する方はこちらからご登録をお願いします。

[https://frm.f2ff.jp/form/seccon\\_ml/](https://frm.f2ff.jp/form/seccon_ml/)  
(SECCON 運営事務局ナノオプト・メディアのサイトです)

